

平成29年度

本宮市教育委員会の事務に関する

点検・評価報告書

(平成28年度事業)

本宮市教育委員会

目次

I 点検・評価制度の概要	
1 目的	1
2 対象事業	1
3 実施方法	1
4 学識経験者の知見の活用	2
II 平成28年度評価対象事業	3
III 学識経験者の意見	4～11
IV 点検・評価の結果	12
1 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	
(1) 人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	
① 保育所事業	13
② 幼稚園管理運営事業	14～15
③ 幼稚園読書活動推進事業	16
④ ブックスタート事業	17
(2) 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	
① 保育所入所児健康づくり推進事業	18～19
② 幼稚園児健康づくり推進事業	20～21
(3) 一人一人の育ちにあった教育の推進	
① 障がい児保育事業（保育所）	22
(4) ニーズに応じた地域子育て支援の充実	
① 一時保育事業（保育所）	23
② 延長保育事業（保育所）	24
③ 預かり保育事業（幼稚園）	25
④ 子育て支援センター事業	26
2 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	
(1) 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	
① キャリア教育推進事業	27
② 体験活動促進事業	28
③ 小学校読書活動推進事業	29～30
④ 中学校読書活動推進事業	31
⑤ 小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	32
⑥ 中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	33
⑦ スクールソーシャルワーカー設置事業	34～35
⑧ 学校復帰支援事業	36
(2) 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成	
① 学力向上対策事業	37～38
(3) 心身の健全な成長を目指す教育の推進	
① 小学校児童健康づくり推進事業	39～40
② 中学校生徒健康づくり推進事業	41
(4) 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	
① 特別支援教育支援員配置事業	42
(5) 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	
① 小中学校学校教育事業等助成事業	43～44
② 通園通学支援事業	45

3	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	
	(1) 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	
	① 成人教育事業	46～47
	② 女性教育事業	48
	③ 高齢者教育事業	49
	(2) 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	
	① 市民競技力向上対策事業	50
	② スポーツ推進委員活動事業	51
	(3) 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	
	① しらさわ夢図書館運営事業	52～53
	(4) 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	
	① 青少年健全育成推進大会事業	54～55
	② 放課後子ども教室推進事業	56～57
	(5) 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	
	① 文化芸術行事開催事業	58～59
	(6) 本宮市の歴史と文化の継承と発信	
	① 文化財・史跡保存事業	60
4	安全で安心して学べる教育環境の確保	
	(1) 安全な教育施設の整備	
	① 学校施設等耐震化推進事業	61～62
	(2) 安全・安心な教育環境の確保	
	① 学校給食放射性物質検査事業	63
○	教育委員会運営事業	64～65

I 点検・評価制度の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされている。

本宮市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に係る点検評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 対象事業

本市では、教育基本法第17条第2項に基づき、市の実情に応じた教育の振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成25年度に「本宮市教育振興基本計画」（以下「教育振興基本計画」という。）を策定した。

点検評価の対象事業は、教育振興基本計画の施策体系に基づき、平成28年度教育委員会重点施策に位置付けた事業を対象とした。

3 実施方法

点検評価の実施にあたっては、対象事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題・改善点を示し、自己評価を行った。

なお、評価基準については、自己評価による事務事業のランク分けをわかりやすくするため、S・A・B・Cの4段階とする見直しを行った。

ランク	評価基準
S	目標を上回って達成した。 事務事業として計画を上回る成果を挙げた。
A	目標のとおり達成した。 事務事業として計画通りの成果を挙げた。
B	目標をやや下回った。 事務事業として計画通りの成果が挙げられなかった。
C	目標を大きく下回った。 事務事業としてほとんど成果が挙げられなかった。

4 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による学識経験を有する方の知見の活用については、外部の学識経験者で構成する本宮市教育事務評価委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を聴いた。

○本宮市教育事務評価委員会委員

	委員名	関係所属等
委員長	小澤 悌一	学校教育関係
副委員長	佐藤 カネ子	文化団体連絡協議会
委員	青田 誠	学校教育関係
委員	桜井 弘和	社会体育関係
委員	高橋 哲也	保護者代表

II 平成28年度評価対象事業一覧

基本目標	施策	事業名	課等	係
I 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	1 人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	保育所事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園管理運営事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園読書活動推進事業	幼保学校課	幼保教育係
		ブックスタート事業	白沢公民館	社会教育係
	2 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	保育所入所児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係
		幼稚園児健康づくり推進事業	幼保学校課	幼保教育係
	3 一人一人の育ちにあった教育の推進	障がい児保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
	4 ニーズに応じた地域子育て支援の充実	一時保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
		延長保育事業(保育所)	幼保学校課	幼保教育係
		預かり保育事業(幼稚園)	幼保学校課	幼保教育係
		子育て支援センター事業	幼保学校課	幼保教育係
	II 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	1 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	キャリア教育推進事業	幼保学校課
体験活動促進事業			幼保学校課	学校教育係
小学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係
中学校読書活動推進事業			幼保学校課	学校教育係
小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係
中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			幼保学校課	学校教育係
スクールソーシャルワーカー配置事業			幼保学校課	学校教育係
学校復帰支援事業			幼保学校課	学校教育係
2 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成		学力向上対策事業	幼保学校課	学校教育係
3 心身の健全な成長を目指す教育の推進		小学校児童健康づくり推進事業	幼保学校課	学校教育係
		中学校生徒健康づくり推進事業	幼保学校課	学校教育係
4 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実		特別支援教育支援員配置事業	幼保学校課	学校教育係
5 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進		小中学校学校教育事業等助成事業	幼保学校課	学校教育係
		通園通学支援事業	幼保学校課	学校教育係
III 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援		1 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	成人教育事業	中央公民館
	女性教育事業		中央公民館	社会教育係
	高齢者教育事業		中央公民館	社会教育係
	2 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	市民競技力向上対策事業	生涯学習センター	社会体育係
		スポーツ推進委員活動事業	生涯学習センター	社会体育係
	3 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	しらすわ夢図書館運営事業	白沢公民館	社会教育係
	4 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	青少年健全育成推進大会事業	生涯学習センター	社会教育係
		放課後子ども教室推進事業	生涯学習センター	社会教育係
5 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	文化芸術行事開催事業	生涯学習センター	文化振興係	
6 本宮市の歴史と文化の継承と発信	文化財・史跡保存事業	生涯学習センター	文化振興係	
IV 安全で安心して学べる教育環境の確保	1 安全な教育施設の整備	学校施設等耐震化推進事業	教育総務課	教育施設係
	2 安全・安心な教育環境の確保	学校給食放射性物質検査事業	幼保学校課	学校教育係
		教育委員会運営事業	教育総務課	総務係
		評価事業 38事業		

Ⅲ 学識経験者の意見

Ⅲ 学識経験者の意見

基本目標Ⅰ 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実

【施策1】人とのかかわりを通じた豊かな心の育成

《評価》

保育所・幼稚園事業ともに、本宮方式というべき本市独自の幼保共通カリキュラムによる保育事業を展開、さらに、「すこやか子育て相談室」を設置し保育所・幼稚園に通わせないで自宅で子育てしている親に対しても子育て支援を行うなどきめ細やかな子育て支援を実施している。また、臨時職員を確保するなど待機児童ゼロに向けての努力も高く評価できる。

施設での乳幼児の事故が度々報道されるなか、職員に対し事故防止に向けた研修会を実施するなど、危機管理体制確立への配慮もなされており適切である。

従来の幼稚園児に対する絵本の読み聞かせや10ヶ月健診の機会を活用したブックスタート事業に加え、本年度からは3～4ヶ月健診および1歳6ヶ月と3歳児健診でも絵本を配付し、ブックスタート事業の更なる充実を図ったことは評価できる。

《意見》

昨年度も指摘したことであるが、親へのアンケート調査等を実施し、ブックスタート事業の検証を試みる必要がある。

年度途中における待機児童の発生等、全国的に保育士の確保の課題がある。本市においても子育て環境の充実のために保育士の待遇改善と確保のための努力を今後も期待したい。

【施策2】体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成

《評価》

各幼稚園・保育所、幼保総合施設において、親子体操教室、わらべ歌教室、歯の健康教室など多彩な活動を用意し、それぞれの施設の特色を生かしながら健康増進のため体験活動等を実施することは、乳幼児にとって重要なことである。その支援策の一環として各施設に交付金の助成を行っていることは評価できる。

《意見》

子どもの健康増進のためにどのような体験活動が必要かなど、子どもの発達段階や課題などの実態を踏まえながら、活動内容のさらなる充実を図るため職員研修などに努めてほしい。

【施策3】一人一人の育ちにあった教育の推進

《評価》

保育事業の段階で障がい児保育に取り組むことは、スムーズな就学指導に繋がるものであり重要である。低年齢のため、障がい児と判断することが難しく加えて親の理解を得るのも困難といった難しい課題もあるなか、担当保育士を確保し障がい児保育に取り組んでいることは評価できる。

《意見》

発達段階に応じた支援を継続するためには、何よりも人的な配置が求められる。財政的な制約がある中でどのような対策が実施できるのか、保護者への相談体制の充実と共に今後も検討

いただきたい。

【施策4】ニーズに応じた地域子育て支援の充実

《評価》

本事業を活用する世帯は一時保育事業を除き年々増加しており、市民の本事業への理解が深まっているといえる。その背景には、女性の社会進出（就労等）やライフスタイルの変化等に起因する市民のニーズに応えようとする行政側の努力と、延長保育や預かり保育のため遅くまでの勤務を余儀なくされる保育士の苦労があることを忘れてはいけない。

《意見》

保護者の「地域子育て支援」等へのニーズや多様化への要望は、今後もますます増大することが予想される。財政措置と共に保育士等の確保に今後も努めていただきたい。

基本目標Ⅱ 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実

【施策1】人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成

《評価》

キャリア教育推進事業では著名なスポーツ選手との触れ合いを、体験活動推進事業では、県の元気キッズサポーター事業を活用した体験活動を中心とした内容で展開されており、いずれの事業も子どもの感性や情操を豊かにし生きる力の育成に大いに役立つものと期待できる。

小学校・中学校読書活動推進事業では、本年度から新たに学校図書館司書1名を増員し図書館業務の充実を図ったり、学校の図書充足率も9割に達するなど着実に成果をあげている。

小中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、各種コンクールへの参加経費や負担金を支援することで、親の負担軽減はもちろん、学校・子どもの積極的な参加意欲にもつながっており、各種コンクールの実績がそのことを示している。

S S W配置事業では、2名のS S Wを配置し、子どもが抱える様々な諸問題に対し、子ども本人はもちろん、親や教師に対しても適切にアドバイスできるよう配慮しており、問題解決に大きく寄与していると評価できる。

学校復帰支援事業では、適応指導教室に通う子どもの数が年々増加し、教室への理解が定着しつつあることが分かる。本年度は12名の生徒が在籍し、うち9名が進学し、2名が学校復帰を果たすなど確実に成果をあげている。

《意見》

今後は図書充足率100パーセントを目指して努力してほしい。

S S W配置事業においては、充実した内容となっており、今後も現行の活動が保証できるような事業の継続に配慮いただきたい。

【施策2】思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成

《評価》

諸検査結果を分析し、本市における問題点と課題を明らかにし、その結果をもとに、年2回の学力向上委員会、中学校区ごとの研修会や授業研究会、さらには年5回の外部講師による研

修会を開催し、各学校の学力向上に向けた取り組みを推進している。その結果、全国標準学力検査では小中学校とも全国平均を上回るなど成果をあげている。

今後は、市総合計画後期目標値（小学校54.0、中学校51.0）達成に向け、個別指導の徹底を図るとともに、指導法を工夫するなどさらなる努力を期待したい。

チャレンジ学習推奨補助事業では、昨年度の漢字・英語に加えて算数・数学検定も補助対象とし、子どもたちのニーズに幅広く対応できるようにしたことは評価できる。結果昨年度5割だった利用者数が6割に増えるなど、子どもたちの検定への参加意欲は向上している。

《意見》

全国標準学力検査結果（NRT）において、アンダーアチーバーの生徒が約1割を超えていることから、教員のさらなる指導力向上が求められる。今後は、可能なかぎり児童生徒の学力向上に結びつくような研修内容・方法等の見直しを図ることが必要であり、教員個々の日々の授業での学力向上に向けた努力に期待したい。

一人上限を1,000円とした援助は保護者にとって助けとなるであろうが、複数の検定を受けるとなると保護者にとって大きな負担になる。検定にチャレンジする子どもの割合をさらに向上させるには援助額を上げるなどの予算的配慮が必要ではないか。

【施策3】心身の健全な成長を目指す教育の推進

《評価》

小中学校ともに市からの補助金を有効に活用し、小学校では「歯科・食育」に関するもの、中学校では「食育・性に関する教育・薬物乱用防止」に関する内容が多く取り上げられており、発達段階に応じた内容を適切に設定している。さらに、小中学校ともに「スポーツテスト」の実施に補助金を活用し、体力テストの結果が昨年度を上回る等の成果をあげている。

《意見》

従来補助金が20万円で推移してきたが、本年度は18万円と2万円減額されている。その理由はわからないが、健康づくりは教育の基礎でもありこれ以上減額されることがないことを願う。

心身の健全な成長のためには、学校のみならず家庭の役割も無視できない。今後は、食育教育なども含めて学校と家庭との連携のありようについても検討していく必要がある。

【施策4】子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実

《評価》

LDやADHD等の障がいを持つ児童生徒はどの学校にも在籍し、その子どもの親の多くは普通学級での生活を希望する。親の気持ちからすれば当然のことである。その結果、学校（担任）は一人の子どもに大きな労力と時間をかけることを余儀なくされる。本事業はそういう学校にとって大きな助けとなるとともに親にとっても安心して我が子を学校に通わすことができ、本事業の教育的価値は非常に高いと評価できる。

《意見》

10名の支援員配置に1千8百万円強の財政負担は大変である。しかし、ひとたび問題が起

これば金銭では解決できない事態が起こりうることも事実である。障がいの様相は様々であり一人の支援員が複数の子どもに対応しなければならない場合は要注意である。ゆえに子どもの障がいに適切に対応できるよう支援員の資質向上を図るとともに、特別支援教育に携わる教員の指導力向上にも視点をあてる必要があるように思われる。できれば、特別支援教育の有資格者の配置に努めることを期待したい。

【施策5】震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進

《評価》

小中学校教育指導等助成事業では、各学校が交付された補助金を有効に活用し、自校の事情に即した様々な活動を展開している。学校独自では予算的に実施不可能な活動も、本事業の補助金のおかげで親に負担を掛けないで実施でき、様々な体験活動や講演会等を通して先人の貴重な話を聞いたり、様々な芸術に触れたり、子どもの豊かな心の成長に大きく貢献しているものと評価できる。

園・学校内で起きる事故に比べ通園通学時の事故は多く、通園通学時の安全対策は不可欠である。4千万円を超す財政負担は行政にとって大変であるが子どもたちの安全確保と保護者の負担軽減にもつながり、通園通学支援事業は評価できる。

《意見》

通園通学支援事業は、安全確保の視点からも継続させたい事業であるが、大きな財政支出が求められることから、コスト削減に向けた努力が必要であると考えられる。

基本目標Ⅲ 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援

【施策1】共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進

《評価》

成人・女性・高齢者教育事業では、いかにして魅力ある講座を設定し多くの受講者を確保するかで苦勞しているのが実情である。しかし、趣味・趣向が多様化しかつ個人のレベルで簡単に楽しめる今の時代、魅力ある講座・講師を設定しない限り人は集まらないしそれにはお金がかかる。だが3つの事業合わせても50万円そこそこの予算ではできることは限られる。そういうなかで事業を評価するとすれば、苦勞しながらも努力していると評価したい。

《意見》

本事業の成果は、参加者数の多少ではなく、参加者の事業への満足度であり、「事業実績」か「事業成果」の欄に参加者へのアンケート調査結果等が表示されることを希望したい。

【施策2】健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進

《評価》

市民競技力向上対策事業では、従来は児童生徒が対象であったが本年度より小学生以上の市民全般へと対象者が広がったこと、定員を超えて希望者に対応できたこと、継続希望の声が多

かったことなどを総括し本事業の目的が達成できたものと評価したい。

《意見》

スポーツの競技力向上事業は、一般市民が多く参加できるような「ニュースポーツ」等も含め偏りのない多種目で実施していただきたい。

【施策3】「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進

《評価》

「本とともだちになれるまち もとみや」のスローガンのもと、きめ細やかな読書活動推進事業を展開している。その特徴として、①乳児を対象にしたブックスタート事業から始まり、幼稚園、小中学校と子どもの発達段階に応じた読書活動推進事業を展開していること、②それらの事業は市民全般を対象とした「しらさわ夢図書館事業」へと引き継がれ、読書活動の振興・活性化を図るとともに、図書館・学校図書館ネットワークシステムによる貸し出しの利便性や利用サービスの向上により多くの市民が図書館を活用するようになったこと、③中学校に配置された学校司書2名の存在が大きな戦力となっていること、④本年度は「家族読書おススメ図書100選事業」にも取り組み家庭での読書習慣普及にも力を入れたことなどがあげられる。その精力的な取り組みはS評価に値するものと評価する。

《意見》

広報もとみや掲載の「本宮の書齋から」のようなPR活動を行い、「本を読む」大切さを知ってもらうことと、図書館の利用につながるよう魅力的な広報活動を続けていただきたい。

【施策4】学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実

《評価》

青少年健全育成推進大会事業では、昨年度に引き続き本年度も「少年の主張」に高校生が参加したことを評価したい。本事業は、地域をあげて子どもたちの健全育成を図っていくことを市民みんなで再確認することが大きなねらいであり、市民総ぐるみ運動の一環でもある。300名という多くの参加者のもと開催されたことは評価できる。

放課後子ども教室推進事業では、定員の枠を超えた申し込みがあり、子ども・親から一定の評価を得ていることがわかる。その背景には地域の方々との触れ合いや提供される活動が子どもたちにとって楽しい活動だからであろう。遊友クラブ運営委員会の努力を評価したい。

《意見》

「少年の主張」を「青少年の主張」とし、大学生や若い社会人にも参加してもらい、その考えを小中学生に聞かせることも意義がある。「課題・改善点」にも記されているように広い年齢層の参加による青少年健全育成推進大会事業となるよう期待したい。

遊友クラブは、放課後の子どもたちの安全な居場所であるばかりでなく、そこでの遊びはメディアコントロールの観点からも大変有意義であると考えられる。ゆえに、今後も児童民生委員の協力のもと遊友クラブの継続を願う。

【施策5】文化や芸術に親しみ活動する機会の充実

《評価》

音楽、劇、映画、民俗芸能、作品展示、かるた大会など内容が多岐にわたり、個人の興味関心に応じた参加ができることが本事業の魅力である。このことは参加した市民へのアンケート調査が高い満足度を示していることから理解できる。

《意見》

今後も、優れた文化や芸術を子どもから高齢者まで幅広く親しまれる内容を提供できるよう、より一層の充実化を期待したい。

【施策6】本宮市の歴史と文化の継承と発信

《評価》

文化財・史跡の保存、開拓は子供から大人まで故郷・本宮への郷土意識感覚が生まれると評価できる。

《意見》

文化財・史跡保存事業では、市の歴史と文化遺産は市民の誇りであり、貴重な文化遺産を後生に伝えていくことは大切なことである。既存の文化遺産の維持管理はもちろんのこと、新しい遺跡の更なる発掘にも力を入れてほしい。

文化遺産、それは学術的な価値ばかりでなく、観光と相まって市の経済発展と密接につながる。本市が誇る貴重な文化財・史跡の市内外への積極的な情報発信に期待したい。

基本目標Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の確保

【施策1】安全な教育施設の整備

《評価》

学校施設等耐震化推進事業では、学校施設等の耐震化事業が計画通り着実に進行しており評価できる。

《意見》

学校施設は、そこで生活する子どものみならず、緊急の避難施設として一般市民にとっても重要な施設であり、今後も引き続き安全な施設の整備に取り組んでほしい。さらに、将来的に避難場所になった場合、衣食住等のソフト面での役割も検討を加えていくことが必要であると考える。

グラウンドの水はけ、プール等の老朽化にも随時改善を図っていただきたい。

【施策2】安全・安心な教育環境の確保

《評価》

学校給食放射性物質検査事業では、すべての給食について食材ごと、一食丸ごとの検査を行い、10ベクレル未満という厳しい基準での検査は保護者の理解を得るのに十分である。さらに、市のホームページに結果を公表し保護者の給食への不安解消に努めており評価できる。

《意見》

現在、ほとんどの食品については流通時に検査等を行っている。さらに市独自基準で検査を実施している。今後もこの検査態勢を継続するのか、国や他市町村の動向を踏まえて検査態勢を集約するのか、検討の時期にきているのではないかと考えられる。

線量を気にしている人とそうでない人がいるが、その場合は気にしている人を基準に考えるのが基本。特に子どもに提供される食材は完璧であってほしいものである。

総 括 的 意 見

◇本報告書に示された38事業が、平成26年度からスタートした「本宮市教育振興基本計画」に則り適切に実施されていることを評価する。その中でも、以下の2点は本市教育行政の特筆すべき事業として評価できる。

①充実した「子育て支援」事業

様々な事業形態を導入し市民のニーズに応じた多様なサービスを提供している。結果、社会問題化している待機児童の解消や幼い子どもを抱える親世帯への充実した支援など、大きな成果をあげていること。

②「本とともだちになれるまち もとみや」をスローガンに掲げ、乳幼児から大人までを対象に、その発達段階をふまえながらきめ細やかな読書啓発に取り組んでいること。

◇『「計画→実施→評価」は一般的な流れである。この流れでいえば評価が最終段階のように思われるが、実は評価は新たな行動（改善）の始まりでもある。ゆえに、「課題・改善点」に記された内容が次年度どれだけ改善できたのか、できなかったのかが問われることになる。今後は、報告書の「課題・改善点」の中に、「昨年度～だったが本年度は～に改善できた、できなかった」といった文言が多く登場することを期待したい』

これは昨年度の総括的意見として述べたことであるが、本年度の報告書を見る限りこれに対応できた箇所が見当たらなかったのは残念である。アカウントビリティ（説明責任）としての評価も大切であるが、評価を次のステップ（向上）の足掛かりとして受け止め、何ができて、何ができなかったのか、そしてその原因はどこにあったのかを考えることも重要である。

◇教育振興基本計画の趣旨に沿った事業が実施されていると評価する。保育所、幼稚園、小中学校など各種研修会の参加により教育や活動の改善に努めた。

現場の声を聞き取り、教育活動の支援及び教育環境の整備に努めたことは更に評価したい。

◇報告書から、全体的に年齢層も幅広く、またあらゆる環境に即した細やかな施策および支援を講じていると評価できる。特に幼児・児童・生徒にはその成長段階に配慮した細やかな支援がなされている。欲を言えば、幼児に関しては非常に重要な時期であることから、学習・運動能力を更に向上させるための支援拡大を期待するところである。また、人員不足等の同じ問題が毎回出ないよう、人件費や待遇も含め人員確保に向けた抜本的な対応を期待したい。

IV 点検・評価の結果

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	1	保育所事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者が就労等により昼間保育することができない就学前の児童を、市内の5か所の保育所で保育する。

[目的]

対象： 就労等により、昼間、児童を保育できない保護者
(何を・誰を)

意図： 就労等により昼間、児童を保育できない保護者に代わり、保育所で保育する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

○入所児童数 (3月末現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所	0	17人	18人	20人	24人	24人	103人
第2保育所	15人	17人	17人	19人	21人	18人	107人
第3保育所			12人	20人	16人	21人	69人
五百川幼保総合施設	11人	36人	50人	44人			141人
白沢保育所	12人	16人	16人	20人			64人
合計	38人	86人	113人	123人	61人	63人	484人

○先生1人当たり受け持てる人数

0歳児	3人
1・2歳児	6人
3歳児	20人
4・5歳児	30人

[事業の成果]

日中、仕事や介護、病気などを理由に子供の面倒を見る事が出来ない保護者(保育に欠ける児童)に対し、保育所で子供を保育することにより、子育て支援の一助となっている。

0歳から就学前までの乳幼児を受け入れ、発達の連続性を考慮した「幼保共通カリキュラム」を基に保育をしている。発達に必要な経験を積み重ねることで、人とかかわる楽しさや大切さに気づいたり、基本的生活習慣を身に付けることができている。

また、子どもたちを預かる保育所では、特有の多くのリスクを抱えており、万が一の事故やトラブルが生じた場合の危機管理体制等について研修を実施し、人材育成と保育の質の向上を図ることを目的とする職員研修会を計画的に実施した。

次に、待機児童の発生状況について、国の公表基準日(4/1現在、10/1現在)では発生しなかったが、育児休業満了による入所申込みが増加し、11月より数名の待機児童が発生した。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、保育士(臨時職員)の確保には苦慮している。
- ・入所希望児童の受け入れは可能な限り行っているが、0歳児に関しては育児休業満了に伴う申し込みが増加傾向にあり、例年年度末にかけて、数名の待機児童が発生している。また、今後の保育需要の伸びに対応するためにも、一時保育事業の更なる推進及び施設整備事業の進捗が重要となってくる。

[自己評価判断理由] 担当課長

基準日(4/1、10/1)における待機児童は発生しなかったが、年度途中においては一時待機児童が発生した。今後、保育需要が増加する中で引き続き保育士の確保に努める必要がある。

[教育長又は教育部長評価]

待機児童対策は全国的な課題となっており、本市においても保育士の人材確保に苦慮しているものの、国の基準日において待機児童が発生しなかったことを評価する。これは不断の努力の成果であり、今後も年間を通した保育士確保に取り組み、保育需要に応じた受入体制を整えてほしい。

自己評価
A

事業費・財源内訳

決算額	千円
	117,099
財源	
国庫支出金	96
県支出金	3,383
その他	51,564
一般財源	62,056

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	2	幼稚園管理運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

教育内容の充実と教育環境の整備に努め、市内5か所で4、5歳児を対象とした幼稚園を運営する。

[目的] 対象： 公立の幼稚園児、公立幼稚園
(何を・誰を)

意図： 園児が安心して幼稚園に通い、学べる環境づくりを推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	24,075
財源	
使用料及び手数料	12,580
その他	847
一般財源	10,648

[事務事業の活動実績]

○入園児童数 [平成29年3月1日現在]

幼稚園名	4歳児	5歳児	合計
五百川幼保総合施設	60人	52人	112人
岩根幼稚園	44人	58人	102人
糠沢幼稚園	20人	17人	37人
和田幼稚園	14人	7人	21人
白岩幼稚園	23人	23人	46人
合計	161人	157人	318人

○幼稚園保育料の減免措置

*市独自減免額(28年度前期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	10 150,000	9 67,500	0	19 217,500
上記区分以外の世帯	0 0	6 120,000	0	6 120,000
合計	10 150,000	15 187,500	0	25 337,500

*市独自減免額(28年度後期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	7 147,000	8 84,000	0	15 231,000
上記区分以外の世帯	0 0	7 196,000	0	7 196,000
合計	7 147,000	15 280,000	0	22 427,000

低所得者及び、保育所・幼稚園に同時に通所通園する場合の第2子以降がいる世帯の保護者の負担軽減を図るため、幼稚園保育料の減免を行った。

○すこやか子育て相談室

幼稚園・保育所に通わないで、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとについての相談に応じるため、「すこやか子育て相談室」を実施している。

また、通常の保育状況を参観し、子育ての参考にしってもらう保育参観や、季節の行事へ参加を呼びかけ、幼稚園・保育所へ通わない世帯への支援を行った。

[事業の成果]

4、5歳児の就学前までの幼児を受け入れ、「幼保共通カリキュラム」に基づき、幼児の個性や発達段階を考慮しながら教育・保育を実践している。また、幼稚園生活を通して、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成し、スムーズな就学移行が図られた。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、幼稚園教諭（臨時職員）の確保には苦慮している。
- ・市内5か所の幼稚園は、生活環境及び地域性の違いから、園児数に大きな差が生じている。特に白沢地区においては、少子化等の影響もあり、入園者が年々減少傾向にある。また、余剰教室も発生していることから、保育所待機児童対策の面からも総合的な活用方法等も調査・検討が必要。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市内5か所の幼稚園における園児数の差が生じているが、園児が安心して通い学べる環境づくりのため、本市独自の共通カリキュラムによる保育により、適切な保育ができています。

[教育長又は教育部長評価]

幼保・小中学校の連携のもと、本市独自の「幼保共通カリキュラム」により幼児教育が適切に行われている。また、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとなど、身近な子育て相談窓口として機能している。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	3	幼稚園読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園児に絵本の読み聞かせや貸し出しを行い、お話の世界にたくさん触れさせるなど、読書習慣の形成を支援する。

[目的]

対象： 市立幼稚園の園児
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活(事業のねらい、対象をどう変えるのか)に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	149
財源	
一般財源	149

[事務事業の活動実績]

幼稚園児に絵本の読み聞かせなどで活用した。

幼稚園名	購入冊数	貸し出し冊数
五百川幼保総合施設	23冊	2,644冊
岩根幼稚園	22冊	2,835冊
糠沢幼稚園	21冊	1,507冊
和田幼稚園	31冊	733冊
白岩幼稚園	24冊	1,400冊

[事業の成果]

昨年度に引き続き、読み聞かせや、定期的な貸し出しを行うことにより、読書に対する興味を深め読書習慣を身につけ、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養えた。また、保護者からは週末の絵本貸出により、子どもが本に興味を持ち、読み聞かせをする機会が増えるので大変良いと好評である。

[課題・改善点]

年次計画により、図書の更新を図っているが、司書と連携しながら、優良な図書の選定を行う。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

図書の購入は、毎年一定数を更新することができていること、また、学校司書の増員による読書指導の充実により、読書習慣が着実に身についていると推測される。

[教育長又は教育部長評価]

継続的な読み聞かせや絵本の貸出等の読書活動を通して、創造性を育み、豊かな心を育てることは大切であり、市立図書館との連携により絵本の貸出冊数が増加していることは、読書の習慣化や家族読書の推進に寄与しているものと考えられる。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	4	ブックスタート事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

10か月健診の際に、親子に対して読み聞かせを行い、読書活動啓蒙のために2冊の絵本とパンフレット（バッグ付き）のプレゼントを実施する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	810
財源	
一般財源	810

[目的]

対象： 10か月児・保護者
(何を・誰を)

意図： 子どもが乳児期から絵本による語りかけを行い、子どもの発達に合わせた本との関わりを持たせる。保護者に対しては、成長に合わせた読書の必要性の理解を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

○ 10か月健診に合わせて、毎月1回実施した。

開催日	人数(人)	会場
4月28日(木)	12	えぼか
5月19日(木)	21	
6月30日(木)	25	
7月28日(木)	18	
8月25日(木)	15	
9月29日(木)	15	
10月27日(木)	22	
11月24日(木)	23	
12月22日(木)	18	
1月26日(木)	17	
2月23日(木)	19	
3月23日(木)	19	
合計	224	

[事業の成果]

当該事業を本宮市では合併当初から実施しており、全国的には1,741団体のうち1,006団体が実施している（2017年7月31日現在 NPOブックスタート調べ）。事業の結果、親子の絆が深まり、喜びが感じられる子育てにつながるものと思われる。また、図書館の利用機会増加への効果も期待できる。

関連事業として、子育て初期の親子の絆の形成や情緒安定のため、3～4か月児健診でプレブックスタートを実施した。また、ブックスタート後のフォローアップとして、1歳6か月児健診及び3歳児健診で読み聞かせを行い、3歳児健診では絵本配布を実施をした。

[課題・改善点]

ブックスタート事業は、若者の読書離れが進んでいると言われているが、読書のきっかけとなる事業であるため、引き続き本事業を展開する必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

本事業は、合併当時から実施している取り組みであり、子どもに読み聞かせをする良い機会となっている。また、親が子どもに対する読書の重要性を認識する機会となり、子どもの読書習慣につながる事が期待できる。

[教育長又は教育部長評価]

新たにプレブックスタートを実施し、3歳児健診までの体系化が図られた。親子で本に親しむ機会が拡大し、読書習慣の形成に寄与している。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	1	保育所入所児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な体を育むための特色を生かした健康づくり活動を行う。

[目的] 対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康増進を図る。

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金をPTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立保育所	主な活動
第1保育所	・食育に関するおはなし会を開催し、絵本、紙芝居等を通し身近な野菜等への興味関心を深めた。 ・体操教室を開催し年齢に合わせた運動遊びを行い、親子の触れ合いを図った。
第2保育所	・体育遊びを行い、基礎的運動や、平均台・マットを使った運動遊びを行うことができた。 ・わらべ歌の講習を受けたことにより、子どもたちが遊びの中で楽しむことができた。
第3保育所	・わらべ歌教室を開催し、ふれあいと楽しく体を動かすことができた。 ・水泳教室を実施し、水に親しみながら体力づくりができた。
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を開催し、親子一緒に体を動かす楽しさを体験することができた。 ・人形劇団を招聘し、人形劇を通し食育への関心を高めた。
白沢保育所	・わらべ歌教室を通して、親子でふれあうわらべ歌に体験ができた。 ・親子体操教室を開催し、発達に必要な動きや基礎体力をつけることができた。

私立保育所	主な活動
もとみや幼児の家	・講師を招聘し、親子で体を動かすことで体力づくりを図った。 ・小さな畑等で野菜を作り、育てる喜びと食べる楽しさを学ぶことで食育を図った。
どんぐり保育園	・運動用にボールを購入し、体を動かすことで健康づくりを図った。
光明保育園	・平均台を購入し、運動や遊びに役立て、体力づくりから園児の健康増進を図った。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を図った。また、通常保育でも有効である遊びを通した体力づくりを実施することができた。

乳幼児については、親子の触れ合いを大切に心身の健康についての活動を行う事ができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が、事業実施により習得した技術を生かし幼児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	400
財源	
県支出金	400

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="177 174 320 208">自己評価</td> </tr> <tr> <td data-bbox="177 208 320 297">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>〔自己評価判断理由〕 担当課長 保育所幼児の運動機会の充実を図るため実施している事業であり、各施設が工夫を凝らしそれぞれ不足する用具の整備や講習会などを実施し、よりよい活動が展開された。</p>
自己評価			
A			
	<p>〔教育長又は教育部長評価〕 課題となっていた東日本大震災以降の子どもたちの体力低下は、震災以前の水準にほぼ戻ってきており、本事業の継続により運動や食育の推進が図られ、子どもたちの健康づくりに寄与している。</p>		

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	2	幼稚園児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な身体を育むための特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康づくりを行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	300
財源	
県支出金	300

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を幼稚園PTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立幼稚園	主な活動内容
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を実施し親子で楽しめる遊びを多く学び、体を動かす楽しさと保護者の関わり方を学ぶことができた。 ・親子体操教室を基に、園児のみでの体操教室を実施。体を使った器具を用いた動きを体験したりすることで、運動遊びの基礎作りにつながった。
岩根幼稚園	・運動遊びのCDを購入し、曲を通して自然に全身を使って遊ぶ楽しさを経験できた。 ・歯の健康教室を開催し、歯磨の実技指導と、歯磨の大切さを学んだ。
糠沢幼稚園	・親子で遊べる運動遊び教室を開催し、親子でふれあい、発達にあった運動を学ぶことができた。 ・わらべ歌教室を開催し、祖父母と一緒にのふれあいを楽しむことができた。
和田幼稚園	・わらべ歌教室を開催したことで、楽しんで体を動かすこと、ルールを理解して遊ぶ機会が増えた。 ・水泳教室を開催し、水に親しむ機会を得たことで水泳力向上の一助となった。
白岩幼稚園	・わらべ歌教室を開催し、保護者と一緒にわらべうたの心地よさを感じ、歌ったり等で楽しんで体を動かすことができた。 ・体操教室を実施し、身体を動かすことの楽しさを味わうことができた。

私立幼稚園	主な活動内容
本宮幼稚園	・健康増進のため、歯科検診と、歯磨指導を受けたことにより、歯科衛生の重要さと正しい歯磨を学ぶことができた。 ・健康増進のために内科検診を実施した。

※各施設の運営方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進事業などを企画運営するため、一律の補助額を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮した屋内活動の充実が図られた。また、通常保育でも有効である遊びを通した体力づくりを実施することができた。
発達の段階に合わせた体を使った運動から歯の重要性の啓発等、健康づくりができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が事業実施により習得した技術を生かし、園児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

自己評価	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 幼稚園幼児の運動機会の充実や健康づくりを図るため実施している事業であり、各施設が体操教室や歯科指導教室など工夫を凝らし実施し、よりよい活動が展開された。</p>
A	<p>[教育長又は教育部長評価] 課題となっていた東日本大震災以降の子どもたちの体力低下は、震災以前の水準にほぼ戻ってきており、本事業による各施設での取り組みが、子どもたちの体力向上や健康づくりに寄与できたと評価する。</p>

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	3	一人一人の育ちにあった教育の推進
事業名	1	障がい児保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

発達障がい児等を受け入れ、児童の心身の発達に合わせた保育援助を行う。

[目的] 対象： 就労等により家庭で十分保育することができない、集団保育可能な
(何を・誰を) 就学前の障がい児の保護者
 意図： 障がい児担当の保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) うことで、障がい児の心身の発達を促し、保護者の育児不安解消や負担軽減を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	10,837
財源	その他
	40
	一般財源
	10,797

[事務事業の活動実績]

担当保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、保護者との連携を図り、障がい児保育を行った。

○障がい児保育児童（実人数）

保育所	第1保育所	第2保育所	第3保育所	五百川保育所部	白沢保育所	合計
人数	2	3	0	2	0	7

[事業の成果]

障がい児を支援する担当保育士を各施設の児童数及び対象児童数から判断し配置し、障がいの程度に見合った保育を行っている。また、保護者との連携を深めながら、育児不安の解消や負担軽減に努めている。

[課題・改善点]

対象年齢が低年齢であり、入所の段階で障がい児と判断するのが非常に難しいのが現状である。また、心身の発達も途上であるため、児童の状況等について保護者の理解を得るのが難しく苦慮しているため、より一層の保護者との連携が必要である。

さらには、保健担当部署、福祉担当部署及びSSWとの連携も密にしながら、入所児童への適切なサポート体制を図ると共に、就学時においては適切な支援と保護者の不安解消に引き続き努めていく必要がある。

担当保育士の配置については、依然として保育士不足が喫緊の課題であり、適切な人員配置ができていないのが現状である。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

障がい児を支援する担当保育士（支援員）を各施設に配置し、支援員と保育士の連携により、発達段階に応じた個々の支援を行うことができた。また、スムーズな就学へとつなぐため、関係機関や保護者との連絡調整ができた。

[教育長又は教育部長評価]

保健・福祉・医療の連携を図り、小学校のインクルーシブ教育へつなげていくことが期待されており、共生社会形成に向けて、本人・保護者のニーズに応じた支援環境を概ね整えることができたものと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	1	一時保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童について一時的に保育所で預かる。

[目的]

対象： 一時的に家庭保育が困難となる就学前児童の保護者
(何を・誰を)
意図： 保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童を、一時的に保育所で預かることにより、保護者の子育てを支援する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,116
財源	
国庫支出金	1,131
県支出金	323
その他	1,241
一般財源	1,552

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所のうち1施設（五百川幼保総合施設）において、一時保育を実施している。

○一時保育利用児童（延人数）

月	利用人数	計
4月	78	78
5月	70	70
6月	86	86
7月	101	101
8月	76	76
9月	89	89
10月	103	103
11月	93	93
12月	93	93
1月	117	117
2月	157	157
3月	152	152
合計	1,215	1,215

[事業の成果]

仕事、休養及び疾病などの理由により、家庭における保育が一時的に困難となった乳児又は幼児を対象に一時保育事業を実施している。受入施設は、五百川幼保総合施設 子育て支援センター内の1施設に集約している。

なお、一時保育事業は、徐々に保護者へ浸透してきており、多様なニーズに対応した保育を実施し保護者の負担軽減に繋がっている。また、集団生活の経験が少ない幼児が集団生活に参加することにより、人とかわる楽しさなど発達に必要な経験を得るための機会を提供することができた。

[課題・改善点]

一時保育利用者数の推移は前年度と比較し、約300名の減少傾向にある。要因としては、保育所需要の増加による利用者の減少が主なものと考えられるが、今後さらに保護者ニーズを注視しながら、待機児童解消の一環としても、一時保育事業の積極的な利用促進PRを行うと共に、子育て支援サービスのさらなる充実を図っていく。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育需要のニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。一時保育については、五百川幼保総合施設にある子育て支援センターへ集約し実施し、緊急的利用者の受入も対応可能となっており、十分な成果があげられたと考えられる。

[教育長又は教育部長評価]

女性の社会進出や核家族化の進展により、本事業に対する保護者のニーズは高い。また、待機児童対策としても保護者の負担軽減の一助となり、子育て支援の充実に寄与できたと評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実														
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実														
事業名	2	延長保育事業（保育所）														
担当課		幼保学校課														
<p>[事業概要]</p> <p>保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間の延長を希望する保護者に対して延長保育を実施する。</p> <p>[目的] 対象： 家庭で十分保育することができない就学前の児童の保護者 (何を・誰を)</p> <p>意図： 保育士を配置して延長保育を実施することで、保護者が安心して就労 (事業のねらい、対象をどう変えるのか) できるようにする。</p> <p>[事務事業の活動実績]</p> <p>5か所の市立保育所において、午後7時まで延長保育を実施した。</p> <p>○延長保育延べ登録児童数 849名</p>		<table border="1"> <tr> <td colspan="2">事業費・財源内訳</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>27,684</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,213</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> </tr> <tr> <td></td> <td>25,471</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳		決算額	千円		27,684	財源	その他		2,213		一般財源		25,471
事業費・財源内訳																
決算額	千円															
	27,684															
財源	その他															
	2,213															
	一般財源															
	25,471															
<p>[事業の成果]</p> <p>保護者の就労形態の多様化に対応するため、保護者の勤務状況に応じて、午前7時からの早朝保育及び午後6時から7時までの延長保育を実施し、保護者が安心して子育てができる環境を提供し、ニーズに対応した子育て支援が図られている。</p> <p>[課題・改善点]</p> <p>特段の課題・改善点は無いが、延長保育事業のさらなる推進を図りながら、きめ細かい子育て支援サービスの充実に努めていく。</p>																
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>保育需要のニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。延長保育については、利用者の増加に対応することができた。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>女性の社会参画が進み就労環境が多様化する中、早朝及び長時間保育のニーズが高まっており、延長保育を必要とする幼児はもとより保護者の安心に寄与できたと評価する。</p>													
自己評価																
A																

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	3	預かり保育事業（幼稚園）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園の教育課程に係る教育時間終了後に在園児を保育する。

[目的]

対象： 在園児及び保護者
(何を・誰を)

意図： 通常保育より延長した保育により更なる幼児教育の推進及び、家庭
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) での育児が困難な世帯に対し子育ての支援を行う。

[事務事業の活動実績]

5か所の市立幼稚園において、午後7時まで預かり保育を実施した。

○実施状況

幼稚園名	登録園児数	利用延べ園児数	保育時間
五百川幼保総合施設	61人	12,276人	【基本利用】 ・通常保育後～午後6時 (土曜日・長期休業期間 は午前7時～午後6時) 【延長利用】 ・午後6時～午後7時
岩根幼稚園	59人	11,366人	
糠沢幼稚園	21人	3,679人	
和田幼稚園	8人	1,788人	
白岩幼稚園	25人	4,590人	
合計	174人	33,699人	

事業費・財源内訳

決算額	千円
	30,810
財源	
国庫支出金	4,595
県支出金	5,481
使用料及び手数料	13,577
その他	1,587
一般財源	5,570

[事業の成果]

幼稚園の教育時間（午後1時）を越え、保育に欠ける要件を有する園児を預かっている。
保育所と同様の子育て支援を実施することにより、保護者ニーズへの対応と就労支援が図られている。

[課題・改善点]

依然として保育士不足が課題であり、預かり保育担当の保育士（臨時職員）の確保には苦慮している状況である。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育ニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。預かり保育については、保育士の確保に苦慮しているが、今年度は利用者の増加に対応することができた。

[教育長又は教育部長評価]

担当職員の確保に苦慮しながらも、保護者のニーズに対応できている。保育所の延長保育事業と同様に、子育て環境の充実に寄与できたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	4	地域子育て支援拠点事業（センター型）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子育て世帯が集う場を設け、子育て世帯の交流、子育て等に関する相談、援助、地域の子育て関連情報の提供などを行う。

[目的] 対象： 施設入所、入園していない子育て世帯
(何を・誰を)
 意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 子育て世帯の悩みや不安を解消する。

事業費・財源内訳	
決算額	千円
	3,416
財源	
国庫支出金	1,426
県支出金	1,426
その他	7
一般財源	557

[事務事業の活動実績]

○活動内容

子育て支援センター月別利用人数

月	保護者数	幼児数	合計
4月	65	81	146
5月	100	100	200
6月	72	84	156
7月	41	49	90
8月	26	36	62
9月	90	108	198
10月	62	72	134
11月	103	128	231
12月	43	58	101
1月	57	72	129
2月	64	85	149
3月	35	46	81
合計	758	919	1,677

[事業の成果]

就園前の乳幼児を対象に「プレ幼稚園」の実施や「子育て相談」を実施し、保護者の子育てに対する悩みや不安の解消が図られている。
 また、平日のセンター解放日や各イベントは、多くの子育て世代の交流機会となっており、家庭保育を行っている保護者の負担軽減及びリフレッシュの場となっており好評を得ている。さらに、保育経験の豊富な保育士が担当していることから、質の高い保育及び子育て支援が提供されている。

[課題・改善点]

子育て支援センターの積極的な利用促進PRを行い、事業のさらなる推進と充実を図っていく。

自己評価
S

[自己評価判断理由] 担当課長

家庭保育を行っている保護者に、子育ての情報発信や悩み等を相談する場を提供し、子育て支援や不安を解消することができた。利用者も前年より増加（117%）しており、センター利用の認識も広がっている。

[教育長又は教育部長評価]

本事業が多くの市民に認識され、子育て中の母親の交流や子育て相談及び就園前児童の集団生活への適応力など、子育て世帯の不安解消に寄与したものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	1	キャリア教育推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

児童、生徒が自らの将来像を考え、勤労観を養う等の取組みを行うため、講演等を行う。

[目的] 対象： 市内小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 児童生徒が将来への夢や職業を思い描き、その実現に向けて努力する
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことができるようにする。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,526
財源	
県支出金	2,499
一般財源	27

[事務事業の活動実績]

- (1) 保育所・幼稚園・小学校・中学校
・基本的な生活習慣の育成として「あいさつ運動」の定着化を図った。
- (2) 小学校5年生・中学2年生
・日本サッカー協会事業によるスポーツ選手を招聘し、夢や挫折、目標を学ぶ教室を開催した。
日 時：平成28年10月5日～平成29年2月27日 延べ22クラス

学校名	月 日	午前	午後	講 師
本宮まゆみ小学校	10月 5日	5-1	5-1	長距離陸上選手 湯田友美 氏
白岩小学校	10月 6日	5		長距離陸上選手 湯田友美 氏
五百川小学校	11月 2日	5-1	5-2	水泳選手 加藤 和 氏
本宮第一中学校	12月 1日	2-1	2-2	スノーボード選手 鶴岡剣太郎
本宮第一中学校	12月 2日	2-3	2-4	サッカー選手 奥野僚右 氏
本宮第二中学校	12月 7日	2-1	2-2	サッカー選手 稲若健志 氏
本宮第二中学校	12月 8日	2-3		サッカー選手 稲若健志 氏
本宮小学校	12月15日	5-2	5-3	水泳選手 伊藤華英 氏
本宮小学校	12月16日	5-1		水泳選手 伊藤華英 氏
岩根小学校	1月18日	5-1	5-2	レスリング選手 永田克彦 氏
糠沢小学校	1月19日	5		レスリング選手 永田克彦 氏
白沢中学校	1月25日	2-1	2-2	サッカー選手 結城耕造 氏
	1月26日	2-3		ボクシング選手 前田宏行 氏
和田小学校	1月26日		5	

[事業の成果]

挫折、成功に関わらず、招聘した講師それぞれの、今に至るまでの体験談等が傾聴でき、児童生徒の将来への夢や職業を思い描くための一助とすることができた。

[課題・改善点]

今後も、このキャリア教育を、児童生徒等にとってより有意義で魅力ある内容にするため事業を継続していきたい。
中学校については、今年度より別事業（小中学校学校教育事業等助成事業）で、キャリア教育推進事業費を上乗せ交付し、各中学校の取組に合わせた事業の展開を可能にした。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

トップアスリートによる「夢の教室」の授業を開催し、将来の夢や職業への希望と、あきらめない強い意志をもつこと、挫折を乗り越えることの大切さなどを伝えることができた。

[教育長又は教育部長評価]

教育振興基本計画に掲げる本市が目指す子ども像「自分のよさや可能性を発見し、夢みる力が強い子ども」の実現のため、児童生徒が社会と将来に夢を持ち、勉学に励む人生訓を身につけるのに寄与できたものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	2	体験活動促進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

○スキー体験教室の実施

[目的]

対象： 児童
(何を・誰を)

意図： 屋外運動の機会を創出し、放射線を気にすることで生じるストレスや運動不足を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う屋外活動制限や避難生活で多様な動きを体得していない子どもの体力向上を目指す。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,487
財源	
県支出金	
	11,487

[事務事業の活動実績]

・屋外運動機会が減る冬場に、スキー体験教室を開催し、震災により屋外運動の機会が減っている児童等にその機会を提供した。
・市内各保育所・幼稚園・小学校・放課後児童クラブに元気キッズサポーターを派遣し、低学年児からの運動能力習得を図った。

○スキー体験教室

実施期間：平成29年1月～2月

対象：小学3年生～6年生

実施場所：あだたら高原スキー場

○元気キッズサポーター派遣

派遣期間：平成28年7月～平成29年3月

対象：保育所・幼稚園児、小学生

派遣場所：市内各保育所・幼稚園・小学校・放課後児童クラブ

派遣延回数

保育所：15回・幼稚園(預かり保育)：10回・小学校：141回・放課後児童クラブ：30回

[事業の成果]

・教育委員会においてスキー体験教室実施の機会を設け、各学校の実施計画により実施。冬場の屋外運動機会を創出し運動不足解消や、ストレス解消の一助とすることができた。
・福島県の元気キッズサポーター派遣事業を活用し、低年齢児からの運動能力習得を図った。

[課題・改善点]

スキー体験教室については、今後も事業継続のための財源確保に努めたい。
元気キッズサポーター派遣事業については、低年齢からの運動能力習得のため可能な範囲で活用したい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

県の補助事業として、屋外での運動が制限される冬期間にスキー体験教室や、保育所や幼稚園、小学校等への指導員の派遣し、幼児・児童の運動機会の増加につながった。

[教育長又は教育部長評価]

「元気キッズサポーター派遣事業」は、幼児や児童の運動能力の向上に寄与しており、「スキー体験教室」も冬期間における屋外運動として定着し、子どもたちの体力向上につながっている。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	3	小学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。
学校図書館司書の活用により、効果的な学校図書館運営を図る。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,628
財源	
その他	
	1,340
一般財源	
	288

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮小	352	438	7,817
本宮まゆみ小	306	181	9,438
五百川小	350	0	5,551
岩根小	420	251	6,648
糠沢小	169	221	5,156
和田小	203	6	3,931
白岩小	381	2	5,539

(平成29年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮小	5,492
本宮まゆみ小	6,431
五百川小	4,328
岩根小	5,138
糠沢小	2,615
和田小	2,161
白岩小	3,614

● 学校図書館司書レファレンス対応件数

相談件数207件
紹介・貸出件数2,635冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業のドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会、ブックトークを併用し、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、今年度は学校図書館司書を1名増員し2名体制として、市立図書館と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約9割となった。今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく。また、図書の選定は、本に接する機会を増やすため学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。本の貸出しについても学校図書館司書と連携し、更なる図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">B</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 毎年計画的に図書を購入し、児童へ読書活動に寄与できた。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、図書館司書による読み聞かせや本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にある。充足率が10割に達していないため「B」評価とした。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 学校図書館司書を2名体制とし、市立図書館との連携のもと図書室の利用や貸し出し件数も増加してきているが、図書充足率が目標に達していないため、B評価は妥当である。</p>
--	---

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	4	中学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。
学校図書館司書の活用により、効果的な学校図書館運営を図る。

[目的] 対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,889
財源	その他
	17
	一般財源
	5,872

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮第一中学校	384	0	10,709
本宮第二中学校	413	0	7,200
白沢中学校	471	0	4,935

(平成29年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮第一中学校	211
本宮第二中学校	2,013
白沢中学校	338

- 学校図書館司書レファレンス対応件数
相談件数31件
紹介・貸出件数292冊

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらさわ夢図書館事業の、ドリーム文庫の貸出を併用し本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、今年度は学校図書館司書を1名増員し2名体制として、市立図書館と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約9割となった。今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく。また、図書の選定は本に接する機会を増やすため、学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。また、本の貸出しについても学校図書館司書と連携し、更なる図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

毎年計画的に図書を購入し、生徒へ読書活動に寄与できた。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、図書館司書による読書指導や本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にある。充足率が10割に達していないため「B」評価とした。

[教育長又は教育部長評価]

学校図書館司書を2名体制とし、市立図書館との連携のもと図書室の利用や貸し出し件数も増加傾向にあるが、図書充足率が目標に達していないため、B評価は妥当である。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	5	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県小学校音楽祭等への参加や、各種文集コンクール等へ作品の出品を行う。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,318
財源	
一般財源	1,318

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクール等への参加、各種作品出品・出展に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

- 音楽コンクール
 - ①安達地区小中学校音楽祭
 - 【第1部合唱】(8月23日：二本松市民会館)
 - ・本宮まゆみ小学校：銀賞
 - ・本宮小学校：銀賞
 - ・岩根小学校：銀賞
 - ②安達地区小中学校音楽祭
 - 【第2部合奏】(9月15日：二本松市民会館)
 - ・和田小学校：金賞
 - ・白岩小学校：奨励賞
 - ③平成28年度ソロ&アンサンブルコンテスト全国大会(11月13日：千葉県文化会館)
 - ・和田小学校 アンサンブル部門：銀賞
 - 全国児童才能開発コンテスト科学部門(3月)
 - 第53回全国児童才能開発コンテスト科学部門
 - ・糠沢小学校 6年生 1名：全国都道府県教育委員会協議会会長賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保護者の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を要求どおり実施することができた。

[教育長又は教育部長評価]

学校規模に拘わらず積極的に各種大会に参加し活躍できたことは、児童の文化意識の高揚や心の成長につながるものであり、今後も各学校の積極的な参加を期待する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	6	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要] 安達地方音楽コンクール・県音楽コンクール等への参加や、中学校英語弁論大会への参加、各種文集コンクール等への出品を行う。	事業費・財源内訳 決算額 千円 892 財源 一般財源 892
	[目的] 対象： 中学校生徒 (何を・誰を) 意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。 (事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクールや文集コンクールへの参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な実績]

- 音楽コンクール等
 - ①県吹奏楽コンクール県北支部大会（7月9・10日：とうほう・みんなの文化センター）
 - ・本宮第一中学校：銀賞
 - ・本宮第二中学校：銀賞
 - ・白沢中学校：銀賞
 - ②安達地区小中学校音楽祭
 - 【第1部合唱】（8月23日：二本松市民会館）
 - ・本宮第一中学校：銀賞
 - ・本宮第二中学校：奨励賞
 - ・白沢中学校：奨励賞
 - 【第2部合奏】（9月15日：二本松市民会館）
 - ・本宮第一中学校：銀賞
 - ・本宮第二中学校：金賞
 - ・白沢中学校：金賞
 - ③県アンサンブルコンテスト県北支部大会（12月3・4日：福島市音楽堂）
 - ・本宮第一中学校：銀賞（1団体）・銅賞（1団体）
 - ・本宮第二中学校：銀賞（1団体）・銅賞（1団体）
 - ・白沢中学校：金賞（1団体）・銅賞（1団体）
- 英語弁論大会
 - ①安達支部英語弁論大会（9月1日：二本松市安達文化ホール）
 - ・本宮第一中学校（4名）：暗唱の部・金賞2名 創作の部・金賞1名 銀賞1名
 - ・本宮第二中学校（4名）：暗唱の部・金賞1名 銀賞1名 創作の部・金賞2名
 - ・白沢中学校（3名）：暗唱の部・金賞1名 銀賞1名 創作の部・銀賞1名
 - ②福島県中学校英語弁論大会（9月9日：郡山市中央公民館）
 - ・本宮第一中学校（1名）：暗唱の部 出場

[事業の成果]
各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]
各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価 A	[自己評価判断理由] 担当課長 保護者の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を要求どおり実施することができた。
	[教育長又は教育部長評価] 全中学校が各種大会へ積極的に参加し、それぞれに練習の成果を発揮できたことを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	7	スクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

中学校区に2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校やいじめ、暴力行為など子どもの深刻な問題行動や虐待、育児放棄及び経済的な困窮家庭などの保護者や子どもに対し、専門的な見地から学校と関係機関の仲介、個々の状況に応じた相談、助言を行う。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、保護者、教職員
(何を・誰を)

意図： 児童生徒や保護者には、SSWにより悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心の安定を図る。また、教員に関してはSSWの専門的なコンサルテーションにより問題解決の糸口を共に探る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	8,757
財源	
国庫支出金	8,558
その他	29
一般財源	170

[事務事業の活動実績]

教育委員会に専門知識を持つSSWを配置し、市内各幼稚園・保育所・小学校・中学校を巡回し、不登校・いじめなどを含めた児童生徒等が抱える課題解決に資した。

諸問題								計
養育環境	長期欠席	いじめ	暴力行為	貧困	障がい	震災関係	その他1	
107	27	10	7	23	114	10	123	421

現状				計
課題解決	経過良好	支援途中	その他2	
34	69	92	44	239

校種別				計
就学前	小学校	中学校	その他3	
44	143	52	0	239

<項目説明>

○諸問題（複数該当）

養育環境…児童虐待、家族の情緒不安定、家庭内不和、DV、多子世帯、ハイリスク家庭など含む。

長期欠席…30日以上欠席者のほか、登校しぶり、別室登校など含む。

暴力行為…自傷他傷を含む。

貧困 …経済的困難さが諸問題にも影響を及ぼすもの。

障がい …知的・身体・情緒：発達・学習などの障害及びその疑いを含む。

震災関係…避難家庭及び震災の影響により諸問題に影響を及ぼしたことが明確なもの。

その他1 …いじめ以外の友人関係、教職員との関係、非行などを含む。

○現状

課題解決…一定程度安定して学校等での生活を送ることができ、主訴であった課題の解決が図れたもの。

経過良好…支援は継続しているものの、家庭、学校、関係機関等の尽力により、課題解決に向けた取り組みが順調に行われているもの。

支援途中…支援を継続し、家庭、学校、関係機関等との協働をさらに図っていく必要があるもの。

その他2 …卒業や転居により、支援が中断せざるを得ないもの。

○校種別

就学前 …市内外の公立私立幼稚園・保育所・療育機関に通う幼児。

その他3 …施設入所及び卒業後の生徒。

[事業の成果]

勤務形態である市教育委員会配置・巡回型を継続し、専門性や役割(臨床心理士・社会福祉士／従来対応。震災対応)を活かした活動の充実を図った。特に、直接子ども・家庭・教員を支援するだけでなく、校内ケース会議への参加や校内支援体制の確立、長期休暇中の居場所作り(にじいろ広場)などの実践を行った。

教職員、児童生徒と保護者と関わる中で、信頼関係がより強固になり、課題・問題を関係者間で共通認識し、関係機関と連携を図りながら、多角的な支援につなげることができた。

早期発見・早期療育及び啓発・予防の視点から、就学相談を適切に行った。これにより、就学後に起こりうるであろう問題に未然に対応し、また、実際の支援についてもより円滑に進められるようにした。

[課題・改善点]

相談案件の複雑化や、関係者の異動(教職員)に伴う相談支援体制の確立を、継続し図っていく必要がある。

支援を必要とする児童生徒等の個々の案件は多種多様であり、潜在化、及び長期化することも危惧されるため、今後も支援方法等について検討する機会をより多く設け、関係各機関と共に連携できる体制を継続していきたい。

学校や相談者の思いに齟齬が見られることもあったので、両者をよりよくつなげられるような働きかけを重視したい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市が単独でSSWの通年雇用は、県内でも先進的な取り組みである。児童生徒や保護者の抱えるさまざまな問題の解決に向けて個々に応じた支援しており、課題解決の一助となっている。また、長期休業中の居場所づくり事業「にじいろ広場」も好評である。

[教育長又は教育部長評価]

児童・生徒が抱える問題は多岐にわたり、保護者や教職員の関わりだけでは解決に結びつかないケースも多い。様々な個々のケースに応じて、SSWが積極的に関与し、関係機関と連携し対応していることを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	8	学校復帰支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

さまざまな理由で登校できない児童生徒に対して、学習指導や自立活動を支援することにより、生活や学習に取り組む態度や意欲を高めることを目的とする。支援方法として「適応指導教室」を開催する。また、Q-Uテストを実施し、学校生活意欲や学級満足度から諸問題の未然防止・早期発見を図る。

事業費・財源内訳	
決算額	千円
	2,712
財源	
一般財源	2,712

[目的]

対象： 登校ができない児童生徒、全児童生徒
(何を・誰を)

意図： 心に悩みを持ち登校が困難な児童生徒について、適応指導やカウンセリング、学力補充などの支援を行い、早期の学校復帰を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

プログラム内容

- ・4月中旬から3月中旬まで、月、水、金の週3日、午前10時～午後2時の開催。
- ・主に午前は自主学習、午後は諸活動として美術、スポーツや調理実習などを実施。
- ・教室での活動のほかに課外活動にも力を入れ、自然、郷土学習にも積極的に取り組んだ。
- ・火、木はできる限り登校に繋がられるよう、学校や家庭と共に働きかけを行った。

- 対象児童生徒数 12名
- 開催回数 112日
- 復帰人数 ・卒業(進学)9名 ・学校復帰(部分登校含む)2名
- その他支援状況 ・「たより」を月1回発行し、家庭並びに学校に配付することで、活動内容をより具体的に紹介することができた。
- ・各生徒の担任や校長などが、教室を自由に訪れることで、生徒の所属感を維持し
- ・月毎に各生徒の出欠状況、学習や活動状況を各学校へ報告した。
- ・定期的に指導主事及びスクールソーシャルワーカー(SSW)と打合せを行い、情報交換を行った。
- ・SSWが生徒に応じて、家庭訪問や保護者等との面談を行うことで、指導員の負担の軽減に努めた。

Q-Uテストの実施

- ・各小中学校の全学級を対象に実施し、学級内の子どもたちの学校生活意欲や学級満足度を把握し、諸問題の未然防止・早期発見を図る。検査結果について、各学校内で検討し、学級経営に活かしている。

[事業の成果]

学校への訪問や保護者との教育相談などを通して、通級生に対するよりよい関わり方や、周囲の理解を深めていくことができた。
指導員2名体制で運営し、それぞれの得意分野を活かした幅を持たせた関わり・支援を実施し、個々のニーズに合わせた学習支援・体験活動・精神的ケアを行ない、児童生徒の意識向上を図ることができた。
対象の中学3年生全員を卒業後進学につなげることができた。

[課題・改善点]

本事業は、適応教室への参加を通して、長期欠席者が学校復帰できるようになることを目標としている。しかし、児童生徒によって学校復帰への道のりは様々で、より子に応じた支援が必要になる。また、まだ「適応教室」につなげていない長期欠席児童生徒に対しても、学校や家庭と連携を図りながら、学習支援や自立支援、生活支援を促していく方法を継続して検討していく必要がある。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

登校が困難な児童生徒に対する復帰支援として、卒業や高校進学への支援ができています。

[教育長又は教育部長評価]

長期欠席児童生徒が抱える心の悩みや生活環境はそれぞれ異なるが、将来への希望にもつながる復帰プログラムとして、本事業を継続していく必要がある。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	2	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成
事業名	1	学力向上対策事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

診断的学力検査、学年別知能検査、学習適応性検査を実施し、各校の特色に応じた学力向上プランを実践する。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒
(何を・誰を)
意図： 学力検査及び知能検査等の調査及び、資格取得の検定料【漢字、算数・数学、英語】の補助を実施し、本市児童、生徒の学力向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,467
財源	
一般財源	5,467

[事務事業の活動実績]

調査を実施し、調査結果を分析し、個々の学習状況に応じて学力向上に寄与した。

[主な活動]

○本宮市学力向上委員会を2度（5月・2月）計画し、その間は中学校区毎に随時研修会や授業研究会等を開き、授業力向上に努めた。

また、5回にわたって外部講師を招聘した。教職員を対象とした授業力向上に向けた研修会を開催し、学力向上を図るための有効な手だてなどについて研究協議を行った。年度末に、各学校における学力向上に向けた取組みの成果と課題を共有した。また、各種検査結果から全国平均より下回っている内容の洗い出しを行い、次年度の具体的な取組みを決めることができた。

- ・本宮市教職員研修会

日程	場所	講師役職・氏名	参加者数
		内容	
7月29日	白沢公民館	文部科学省初等中等教育局 視学官 田村 学 氏 学習指導要領改訂の方向性 ～アクティブ・ラーニングの視点による不断の授業改善～	90人
8月1日	白沢公民館	サイエンスナビゲーター 桜井 進 氏 「雪月花の数学 ～芭蕉の俳句はなぜ五七五なのか～」	39人
8月2日	中央公民館	福島県教育センター 主任実習講師 目黒 朋子 氏 「情報モラル ～ネット依存の現状と対応～」	26人
8月3日	本宮市中央公民館	本宮市教育事務評価委員 小澤 悌一 氏 「保護者への話から見えてくること」	31人
8月4日	市内各所	本宮むかしむかしの会代表 伊藤 豊子 氏 市内フィールドワーク	31人

漢字検定、英語検定、算数・数学検定受験希望者に、一人1,000円を上限に受験料補助を行い児童生徒の学力向上対策の一助とした。

○チャレンジ学習奨励補助事業利用実績

児童生徒数	漢字検定 補助利用者数	算数・数学検定 補助利用者数	英語検定 補助利用者数	合計	合格率			
					漢字検定	算数・数学検定	英語検定	
小学校	1,771	820	292	-	1,112	82%	89%	-
中学校	923	248	30	163	441	47%	77%	74%
合計	2,694	1,068	322	163	1,553			

[事業の成果]

平成28年度全国標準学力検査NRTの偏差値平均では、小・中学校とも全国平均を上回った。チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数は、昨年度より約1割増え、全体の6割近くの児童生徒が利用した。合格率は次のとおりである。漢字検定：小学校82%・中学校47%、算数・数学検定：小学校89%・中学校77%、英語検定：（中学校のみ）74%

教員の日々の授業力向上が学力向上に不可欠であることから、全教職員を対象に、年5回研修を実施し教職員の授業力と資質の向上を図った。

[課題・改善点]

平成28年度以降の市総合計画後期目標偏差値は小学校54.0、中学校51.0である。今回、全体の平均値は目標値にほぼ達するが、アンダーアーチャーにおいて小学校は約6%、中学校は約13%となっており、学力の底上げを図る継続的な取組が必要である。
チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数60%を、さらに有効活用できるよう導きたい。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

学力向上の目標偏差値は達成しているが、チャレンジ学習は受験者数が目標値にもう少しの状況にある。

[教育長又は教育部長評価]

教職員を対象とした授業力向上の研修会開催や、各学校での学力向上のための取り組みが全体的な学力向上につながり、目標偏差値に達する水準となった。
チャレンジ学習奨励事業に関しては、児童生徒参加率の目標値を80%としているが、60%にとどまった実績を踏まえると、B評価が妥当である。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	1	小学校児童健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,260
財源	
県支出金	1,260

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を小学校PTA団体に一律180,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主 な 事 業 内 容
本宮小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・命の授業・学校保健委員会講演会・薬物乱用防止教室を開催し、健康に関する啓発を図った。 ・基礎体力づくりのためドッジボール等の体育用教材を購入し、児童の体力・運動能力の向上に活用した。
本宮まゆみ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・運動用のボール等の体育館用品を購入し、体力向上を図ることができた。 ・マラソン・なわとび活動を推進し、楽しみながら自発的に運動に取り組めることを図った。
五百川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き教室を実施し、児童一人一人が健康づくりへの意識を高めることができた。 ・体育用品を整備・補充する事で体力づくりを行う機会を設定することができた。
岩根小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・各種陸上大会への参加や、校内マラソン・なわとび記録会を行い体力向上につなげることができた。 ・歯科教室を実施し、歯科衛生に関する興味関心を高めることができた。
糠沢小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストを実施し健康づくり教育環境の整備を進めた。 ・歯科衛生事業に取り組み、歯磨きについて理解を深めた。 ・家庭科調理実習の材料を購入し、活用することで食育教育の充実を図った。
和田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季の運動不足解消のため、講師の指導の下、雪山散策を行い体力向上を図った。 ・体育指導用の教材・教具等を充実させたことにより、豊かな心と確かな学力を育む体力づくりを図ることができた。
白岩小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場の体力づくりのため なわとび用長縄を購入し、運動能力の向上を図った。 ・体力テストで課題となった投げるの運動項目向上のため、ボール関係を購入し、授業や普段の遊びの中で多くの児童が活用できるように整備することができた。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康に関する各種教室の開催、また、全学校で実施したスポーツテストの結果を踏まえた基礎体力作りに関する教材の購入等、学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テスト全体の結果を見ると、昨年度と比べ改善傾向がみられる結果であった。特に低学年では顕著な伸びが見られた。就学前年代からの運動経験の積み上げが成果となって表れつつあると思われる。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、全体的には昨年を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

平成23年の原発事故以降、屋外活動制限の影響により児童の体力低下が問題となっていたが、継続的な本事業の取り組みにより、全体として体力面の回復が見られる。さらに、各校の実態に応じた特色ある事業が展開されていることを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	2	中学校生徒健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的] 対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	540
財源	
県支出金	540

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を中学校PTA団体に一律180,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮第一中学校	・給食指導を通し、食生活について理解を深めることができた。 ・思春期教室、薬物乱用防止教室、学校保健委員会を開催し、生徒自身が自分自身の心身の健康について正しい知識を身に付けることができた。
本宮第二中学校	・スポーツテストを実施し、結果を運動能力向上の指導に活かすことができた。 ・球技用ボール等の体育用品、家庭科用タイマー等を購入し、体力向上と食育指導に活用した。
白沢中学校	・性に関する講演会、薬物乱用防止教室を開催し啓蒙を図った。 ・体力づくりや生涯スポーツ奨励の目的で、体育用品を購入し多くの生徒が有効に活用できた。

※各学校の方針に基づき、健康づくり講演会や食育推進、体力づくり推進、保健指導推進事業などを企画運営するため、一律の補助を配当し、活動の一助としている。

[事業の成果]

健康啓蒙に関する教室の開催、体力づくりに関する教材の購入を行い学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テストの全体の結果を見ると、昨年度と比べ改善傾向がみられる結果であった。今後も体力テストの結果の推移に合った事業の展開を継続していく必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、全体的には昨年を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

継続して本事業に取り組んできた結果、生徒の心身の健康に資する基礎は整っている。3校とも工夫をこらした事業展開がされており評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	4	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実
事業名	1	特別支援教育支援員配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通常の学級に在籍しながらも特別な教育的支援を必要とするLD、ADHD等の障がいをもった児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに適切に対応するため支援員を配置する。

[目的] 対象： 市内小中学校に在籍する障がいのある児童生徒
(何を・誰を)

意図： 多動傾向等にある児童生徒や集団生活に馴染めない児童等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、在籍校における生活、学習等様々な教育活動へ参加できるよう適切な対応を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	18,510
財源	その他
	63
	一般財源
	18,447

[事務事業の活動実績]

発達障がい児童、情緒障がい児童及び肢体不自由児童への生活支援のため、一部を除く小中学校に特別支援教育支援員を10名配置した。

区 分	本宮小	本宮まゆみ小	五百川小	岩根小	糠沢小	白岩小
発達障がい支援	1	1	0	0	1	1
情緒障がい支援	1	0	1	2	0	1
肢体不自由支援	0	1	0	0	0	0

[事業の成果]

障害等のある児童生徒に対して、適切に「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえた、個々にあった支援を行なうことができた。

[課題・改善点]

インクルーシブ教育推進するにあたり、障がい等のある子どもが、十分に教育を受けられるための合理的な配慮及びその基礎となる環境整備をしていく必要がある。

限られた人数で、複雑で多種に及ぶ案件に対応するため、人材配置については、増員を含め今後も十分な検討が必要である。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

支援が必要な普通学級に通う障害等のある児童生徒に対して、発達や実態を踏まえた個々にあった支援を行い、対象児童生徒は通常の教育活動へ参加をすることができた。

[教育長又は教育部長評価]

インクルーシブ教育の実践にあたり、特別支援教育支援員を各小学校に配置し、個々のニーズに適応した教育ができたと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	1	小中学校学校教育事業等助成事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

各学校の特色を生かした学習活動を実施する小中学校PTA団体に対し、助成金を交付する。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、小中学校PTA団体
(何を・誰を)

意図： 地域の特性を生かした体験的活動や、豊かな心と確かな学力を育む学習を展開し、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,020
財源	
一般財源	6,020

[事務事業の活動実績]

各小中学校PTA団体に対し、小中学校教育事業等補助金を交付した。

学校名	補助金額(円)	主な事業内容
本宮小学校	391,500	・遠足を実施し、自然体験活動・団体行動・公衆道徳を学ぶことができた。 ・芸術教室では交響楽団の演奏鑑賞を行い、本物の芸術に触れることにより豊かな人間性を育む事ができた。
本宮まゆみ小学校	343,000	・各教科の授業用物品を購入し、授業の充実を図り児童一人一人の学習に対する意欲を高めることができた。 ・花壇用土等を購入し校舎内外の環境整備・美化に努め、児童の豊かな人間性を伸長することができた。
五百川小学校	310,800	・市内で校外見学学習の実施し、社会科学習の充実を図った。 ・体育授業用の屋内練習器具を補充し、児童の意欲的な取り組みができた。
岩根小学校	427,600	・社会科見学学習等、体験学習の経費補助を行い、児童の思考力やコミュニケーション能力が高まった。 ・各種教科教材等の充実を図り、児童が興味関心をもって授業に取り組むことができた。
糠沢小学校	218,600	・芸術(狂言)鑑賞教室を通して、児童が等しく芸術について造詣を深めることができた。 ・体験学習、校外活動の補助により多様な社会体験を学習することができ、豊かな人間性を育むことができた。
和田小学校	138,200	・芸術(狂言)鑑賞教室を通して、生の芸術に触れ、深い関心を持ち、豊かな人間性を育むことができた。 ・見学学習の経費補助を行うことで、充実した活動ができた。
白岩小学校	236,700	・理科実験用の消耗品を整備することで、児童一人一人が実験に取り組み、技能取得と理解を深めることができた。 ・社会科等の見学学習経費補助を行い、児童の健全な人間性を育むことができた。
本宮第一中学校	1,412,500	・部活動用具等を補助し、スポーツ及び文化的な活動への取り組みへの充実を図った。 ・キャリア教育事業では、各種の職業人を講師に講演会や職場体験学習を行い、勤労観を養う等の取り組みを行った。 ・芸術鑑賞教室事業では、和太鼓演奏鑑賞教室を実施し本物の芸術に触れる機会を得た。
本宮第二中学校	1,317,465	・部活動に係る用具等の購入や修繕を行い、充実を図った。 ・キャリア教育事業では、高校の教師を講師として招聘し高校の授業体験を行った。 ・芸術鑑賞教室事業では、民話劇を鑑賞し豊かな人間性を育むことができた。

白沢中学校	1, 223, 800	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動用具の補助等を行うことで、各部活動の充実を図り、心と体を鍛える生徒の達成ができた。 ・キャリア教育事業では、福島県出身の芸能人を講師に講演会を開催し、生徒の将来に対する目的意識の啓発を図った。 ・芸術鑑賞教室事業では、落語鑑賞を行い話の伝統芸能に直接触れる機会を得た。
合 計	6, 020, 165	

[事業の成果]

学校や地域の特性を生かした体験活動や講演会、豊かな心と確かな学力を育む学習活動の展開により、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図ることができた。
各学校、特色を生かした事業に取り組んでおり、児童生徒に対する指導も充実したものとなっている。
また、今年度より、中学校については芸術鑑賞教室・キャリア教育推進事業費分を上乗せし交付した。

[課題・改善点]

P T A会員にも広く事業の目的及び成果を報告し、学校とP T Aが情報を共有しながら事業を継続していきたい。本事業を継続することで、各学校の教育事業を推進し、教育目標実現のための重要な事業として位置付けられる。
今年度より中学校へ芸術鑑賞教室・キャリア教育推進事業費分を上乗せ交付できた事で、各校の取組に合わせた事業の展開ができた。

<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各校それぞれの特色を生かした事業が展開できるよう補助金を交付した結果、教育目標実現のため、文化・スポーツ振興などあらゆる分野の教育事業を実施しており、児童生徒に対する学習支援と学習指導が充実したものとなった。</p>
	自己評価		
A			
<p>[教育長又は教育部長評価] 本市誕生時から継続している本事業は、各学校のニーズに即した多様な活用が図られ、教育活動の充実に寄与するものである。</p>			

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	2	通園通学支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車を基本とするが、通園通学に支援が必要な児童等に対する安全確保と負担の軽減を図る。

[目的] 対象： 通園通学の片道が概ね2キロメートル以上の園児・児童・生徒
(何を・誰を)

意図： 自転車通学者へのヘルメットの支給と通園通学バスの運行
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

●ヘルメット支給状況

学校名	支給数
本宮第二中学校	98個
白沢中学校	90個

●通園通学バス距離別利用者数

区分	距離				合計
	2キロ未満	2km以上～4km未満	4km以上～6km未満	6キロ以上	
小学校	9人	120人	19人	0人	148人
中学校	0人	71人	33人	15人	119人
合計	9人	191人	52人	15人	267人

事業費・財源内訳	
事業費・財源内訳	
決算額	千円
	42,359
財源	
使用料及び手数料	4,612
その他	7
一般財源	37,740

[事業の成果]

今年度より幼稚園便については、保護者送迎が基本であることから廃止した。通学に支援が必要な児童生徒に対する安全確保と負担の軽減を図った。

[課題・改善点]

委託業者で運行計画に基づき適正に運行している。今後も運行体制やコース等を再検討し、通園通学の安全を確保しながらいかにコストを抑え本事業を継続していくかが課題である。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

地域の見守りの目が届かない白沢地区における支援の必要な児童生徒に対し、継続して通園通学バスを運行した。安全が確保され、保護者の安心と負担軽減が図られた。また、自転車通学生徒に対しヘルメットの支給を行い、安全な通学の一助とした。

[教育長又は教育部長評価]

白沢地区における児童生徒の安全確保という観点から、保護者送迎を基本としている幼稚園バスの運行見直しを行い、コスト面で本事業の継続性を確保することができた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	1	成人教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

生涯学習のきっかけづくりや住民相互のコミュニケーションの場を提供し、趣味の多様化に伴い新しい内容の講座を設け、ニーズに応える。

[目的] 対象： 成人（市民、市内在勤者）
（何を・誰を）

意図： 生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

[事務事業の活動実績]

成人教育事業として、中央公民館及び白沢公民館において各種成人講座を開催し、生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

○成人教育事業
（中央公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
お箏体験	7月	1回	5人	2人	7人
米粉大福&ピザ	7月	1回	17人	0人	17人
盆栽教室	7月～9月	4回	5人	0人	20人
アクアビクス教室	6月～7月	4回	20人	0人	69人
ALTと学ぶ 楽しい英会話	11月～2月	8回	21人	0人	112人
スノードーム	12月	1回	13人	0人	13人
アクアビクス教室	1月～2月	4回	9人	0人	33人
ロープワーク教室	12月	1回	9人	0人	9人
アイシングクッキー	1月	1回	5人	1人	6人
合計			104人	3人	286人

（白沢公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
パソコン講座「エクセル編」	6月	5回	6人	0人	27人
大人のための読書会	6月～9月	4回	5人	0人	20人
絵本に出てくるお菓子を作ろう	6月	1回	8人	12人	20人
はじめての三味線	6月	4回	10人	0人	37人
パッチワークのレッスンバッグ	6月～7月	4回	12人	0人	46人
季節食材の楽しい料理	6月～9月	3回	11人	0人	28人
津軽伝統のこぎん刺し	10月	2回	10人	0人	18人
魚のおろし方	12月	1回	13人	0人	13人
大人のための国語教室	12月	3回	17人	0人	48人
パソコン講座「ワード応用編」	1月	5回	6人	0人	30人
絵本に出てくるパンを作ろう	1月	1回	10人	10人	20人
あったかポンチョ	11月	2回	9人	0人	18人
きめこみパッチワーク	1月～2月	2回	16人	0人	29人
合計			133人	22人	354人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	318
財源	
その他	151
一般財源	167

[事業の成果]

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者によりクラブを立ち上げ定期的に活動を始める団体ができるなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。

[課題・改善点]

市民が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができたが、募集定数に満たないため中止となった講座もあり、市民のニーズとのマッチングについてさらに検討が必要。また、前回人気のあった講座でも、開催時期や開催時間などによっても参加人数が変動するなどがあり、今後一人でも多くの市民に参加できるよう、ニーズの掘り起こしを行い、引き続き、趣味の多様化に応じた興味関心のある新たな講座の開催に努めていきたい。また、各講座ごとにアンケートを実施しているが、参加した方の意見のみとなるため、参加していない方のニーズについて把握する方法の検討が必要。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

成人教育事業として、各種の講座を開催し、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。また、アンケート結果では好評な講座が多く、少ない経費で大きな成果を上げることができたものの、より多様化した市民ニーズの掘り起こし及び開催時期・時間などの工夫が必要と考える。

[教育長又は教育部長評価]

各種講座における受講者の満足度は高いものがあるが、市民ニーズに応じた事業展開が課題となっている。今後は、開催講座の工夫に努め、成人教育事業のさらなる充実に努めてほしい。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	2	女性教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

成人女性を対象とし、女性にとって身近な問題に関する内容の講座を開催する。

[目的] 対象： 成人女性
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容を学習することにより、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

女性教育事業として、働く成人女性を対象に女性学級「レディースセミナー」を開催し、健康・趣味・教養などの学習会を通して、学級生の交流を図るとともに楽しく仲間づくりをすることができた。

○女性教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
レディースセミナー	6月～12月	7回	25人	116人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	89
財源	
一般財源	89

[事業の成果]

女性教育事業として、働く女性のニーズに応えた学習会が開催され、学習会を通して学級生の交流を図ると共に、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

また、講座受講者のアンケート結果からは高評価を得ており、講座内容だけでなく、交友関係の場が広がるなどの効果も確認された。

[課題・改善点]

成人女性が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質の向上を図るため、引き続き、趣味の多様化に対応した成人女性の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。

また、女性の社会進出率が高くなったことから、時間を取ることが難しい状況があり、今後は、より短時間で満足度の高い講座内容の検討をしていきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

女性教育事業として、講座生同士の仲間づくりに大きく寄与した。また、社会進出している女性の方に望まれる学習会の開催、学級生同士の交流により、豊かな人間性の醸成と資質・能力及び学習の自主意欲の向上を図ることができた。

[教育長又は教育部長評価]

女性の社会参画が進み、働く女性が増加している中、子育てとの両立やコミュニケーション能力の向上など、ニーズに応じた事業が展開された。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	3	高齢者教育事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催する。

[目的]

対象： 60歳以上の市民
(何を・誰を)
 意図： 教養・趣味・健康に関する内容の学習をとおして社会参加と仲間づくりができ、生きがいをもちながら生き生きと心豊かに過ごせるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催した。

○高齢者教育事業

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
本宮ふれあい塾	6月～12月	8回	24人	152人
新生大学	7月～12月	9回	22人	140人
青田地区長寿大学	6月～11月	4回	31人	97人
荒井地区長寿大学	6月～11月	6回	43人	156人
仁井田地区長寿大学	6月～11月	8回	31人	170人
高木地区長寿大学	6月～11月	8回	36人	209人
岩根地区長寿大学	6月～11月	8回	26人	168人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	116
財源	
一般財源	116

[事業の成果]

高齢者教育事業として、中央公民館では高齢者学級「本宮ふれあい塾」を、また、地区公民館では高齢者学級「長寿大学」を開催し、健康・趣味・教養などの学習会を通して、楽しく仲間づくりをするとともに生きがいのある心豊かな時間を過ごすことができた。
 今年度の特徴として、受講生が増えたのに対し、延べ人数が減少している。

[課題・改善点]

高齢者が生きがいを持ち生き生きと心豊かに過ごし、社会参加と仲間づくりを図るため、引き続き、高齢化社会に対応した高齢者の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。
 成果に述べたとおり、延べ人数が減少したことについては、アンケート結果からやや難しい講座については敬遠する傾向が見られたことから、講座内容についてさらにさらに精査に努めたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

高齢者教育事業として、各地区の高齢者の要望に応えた学習会が開催され、学習会を通して仲間づくりを図り生きがいのある心豊かな時間を提供することができたが、参加者が固定している傾向については、改善(新たな加入者増)を検討が必要。

[教育長又は教育部長評価]

高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進など、目的に沿った事業が展開されている。すでに定着した事業となっており受講者数も増加しているが、さらに事業内容の検討が求められる。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	1	市民競技力向上対策事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

体育協会との協議に基づき競技力向上を目指す種目について専門家を招き、指導を行う。

[目的] 対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民個々の競技能力を高めるとともに、各種競技選手の育成を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

講師名	経歴	対象者	回数
四元奈生美	卓球アジア大会日本代表等	小学生以上の市民全般	2回

事業費・財源内訳

決算額	千円
	379
財源	
一般財源	379

[事業の成果]

体育協会等、スポーツに携わる方からのニーズにより新たな講座として、卓球教室を1日にわたり初心者、上級者に分けて事業を実施した。募集人員については、指導者の人数により40名までとしたが、本宮市卓球協会などの協力により、全ての希望者に対応することができ、参加者からは、次年度以降も継続してほしいなどの要望も有り、レベルの向上やスポーツ事業の推進に貢献した。

[課題・改善点]

競技力向上が事業の目的であるため、一流の指導ができる指導者を招聘するため、回数や人数に制限がある。また、スポーツ競技を多数選出できないことによる偏りについて検討が必要。

本事務事業においては初の試みとして、市内の競技者・団体の協力を得られたことにより多くの市民に参加していただいたこと、及び、市民のニーズを拾って開催できたことについて今後も、より拡充した形での展開にしていきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

専門家の的確な指導により、基礎的レベルが確実に上がったと考えられ、また、市内競技者との協力も得られたことについて、継続的に実施していく事の重要性が認められた。

[教育長又は教育部長評価]

ニーズに沿った競技種目を選定し、市民の競技力向上につながる事業展開ができた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	2	スポーツ推進委員活動事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

市民に対しスポーツの普及と健康づくりの大切さの啓蒙を行うとともに、各種スポーツ大会運営の協力を行う。(定数20人以内)

[目的] 対象： 市民、スポーツ推進委員
(何を・誰を)

意図： 地域の身近な指導者として市民に対し指導助言を行い、個々の技術向上と体力向上の支援を行うとともに、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図っている。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

○活動実績

	事業名	活動人数【延べ】
1	ロードレース大会	14名
2	市民体力測定	11名
3	もとみや駅伝大会	11名
4	福島県スポーツ推進委員研究大会	7名
5	全国スポーツ推進委員研究協議会	2名
6	福島県縦断駅伝大会	8名
7	各種会議等(4回)	58名
	合計	111名

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,042
財源	
一般財源	1,042

[事業の成果]

市や市教育委員会が主催する大会、自主開催事業(市民体力測定会)など6事業(各種会議等を除く)に、延べ63名の委員に大会運営に協力いただいた。

また、全国スポーツ推進委員連絡協議会表彰を受賞し、スポーツ推進委員連絡協議会全国大会の研修に参加するなど、活動の場・内容を広げることができた。

[課題・改善点]

スポーツ推進委員20名を委嘱し各種事業の運営協力をいただいているが、委員それぞれ職業を持ち仕事に折り合いをつけながらの参加であり、活動・参加状況に偏り傾向が見受けられる。

委員の皆さんには、勤務の関係で全ての事業への参加は困難な方もいると思われませんが、これからも協力をお願いし、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図りたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市民体力測定はスポーツ推進委員自らが中心となり実施する事ができ、地域のスポーツの普及活動に大きく貢献することができた。

[教育長又は教育部長評価]

スポーツ推進委員会の活動が年々充実してきているが、地域におけるスポーツ・レクリエーションの振興や普及活動について検討していく必要がある。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	3	「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進
事業名	1	しらさわ夢図書館運営事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

住民の読書活動・情報活動の拠点として、読書活動の振興・活性化を図るために、図書館の適切な運営を行い、図書館資料を充実させ、利用者に必要な資料・情報の提供を行う。また「本宮市子ども読書活動推進計画」を実施するための具体的事業の企画・実施と広報活動を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,511
財源	
その他	166
一般財源	
	11,345

[目的]

対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民が、読書の楽しみや有益性を認知し、生活のあらゆる場面で図書館の資料が身近に活用できるような環境をつくる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

- 市内幼稚園・保育所・小学校のおはなし会の開催にボランティアの協力を得ることで、読書推進活動のより一層の充実を図ることができた。
- 図書館資料購入 2, 199件

【出張おはなし会開催状況】

開催日	開催場所	対象者数 (人)
5月26日	岩根小学校	158
6月16日	白岩小学校	60
6月17日	もとみや幼児の家	40
6月20日	糠沢小学校	30
6月21日	五百川小学校	96
6月22日	糠沢小学校	34
6月28日	本宮小学校	72
7月14日	和田幼稚園	25
9月14日	本宮小学校	58
9月20日	第3保育所	64
9月21日	白岩幼稚園	65
9月27日	白沢保育所	28
9月30日	岩根小学校	158
10月 3日	和田小学校	35
11月11日	第1保育所	105
11月17日	もとみや幼児の家	25
11月18日	第3保育所	18
11月24日	本宮まゆみ小学校	48
11月30日	和田幼稚園	28
12月 1日	五百川幼保総合施設	131
12月 2日	岩根幼稚園	110
12月15日	白岩幼稚園	55
1月17日	本宮まゆみ小学校	54
1月31日	白沢保育所	50
2月15日	五百川幼保総合施設	138
合計		1,685

【有効登録者数】

施設名	有効登録者数 (人)
図書館	9,092
図書室	4,905
移動図書館	3,088
合計	17,085

【利用状況】

	利用人数 (人)	貸出数 (件)	返却数 (件)
4月	1,838	2,525	2,442
5月	2,170	11,355	3,183
6月	2,404	4,387	3,695
7月	3,262	5,892	5,973
8月	3,265	6,106	6,036
9月	2,771	10,644	9,884
10月	2,496	5,061	3,717
11月	2,557	7,443	7,003
12月	2,225	8,560	9,371
1月	2,278	5,198	5,329
2月	2,209	3,561	3,195
3月	2,648	3,432	11,658
合計	30,123	74,164	71,486

【蔵書冊数】 66,106冊

【事業の成果】

貸出数及び返却数は前年度より増加したが、利用人数は前年度より減少した。
 平成24年度に図書館・学校図書館ネットワーク機器の整備が完了し、図書館と学校の相互貸出や検索が可能となり、利便性が向上している。また、図書館で養成している読書活動ボランティアとの連携により利用サービスが向上した。

【課題・改善点】

学校図書館運営・整備に対して、図書館のボランティアの依頼が増加したため、より多くの新しいボランティアを養成するための講習会を開催しており、継続して育成を図る必要がある。
 学校図書館業務については、平成28年度からは市内小中学校全校を学校司書2名が巡回し、児童・生徒の読書活動の推進に寄与した。

自己評価
S

【自己評価判断理由】担当課長

学校図書館システムの稼働により、公共図書館から学校図書館への支援体制が整備され、児童・生徒の読書活動が活性化している。また、市内小中学校全校を学校司書2名が巡回し、児童・生徒への本貸出の援助などを積極的に行ったことにより、登録者数及び図書の出数が前年度より増加した。さらに、家庭での読書習慣普及のため、新たに「家族読書おススメ図書100選事業」に取り組んだ。

【教育長又は教育部長評価】

市立図書館と学校図書館のネットワーク環境が有効的に作用し、学校司書も2名体制となり、学校での読書活動が充実したものとなっている。図書ボランティア団体との連携も図られ、就学前からの読書習慣形成に寄与している。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	1	青少年健全育成推進大会事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

地区青少年育成推進協議会や関係機関等からの協力を得て、各小中学校代表による「少年の主張」の発表と記念講演等を開催する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	58
一般財源	
	58

[目的]

- 対象：(何を・誰を) 青少年、青少年を取り巻く全ての人
- 意図：(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 青少年問題のもつ重要性を踏まえ、広く市民や青少年と関わりのある人の理解と協力を得て、次代を担う青少年の健全な育成を図る。

[事務事業の活動実績]

○ 第8回本宮市青少年健全育成推進大会

- (1) 開催日時：平成28年11月27日(日)
- (2) 会場：サンライズもとみや
- (3) 内容：○「少年の主張」作品発表(15名)

発表者	小学校の部	本宮小学校6年	半田 歩夢
		本宮まゆみ小学校6年	大内 陸司
		五百川小学校6年	遠藤 優太
		岩根小学校6年	豊田 蓮
		糠沢小学校6年	須藤 未菜
		和田小学校6年	磯松 千晃
		白岩小学校6年	渡邊 敦也
	中学校の部	本宮第一中学校2年	芳賀 花音
		本宮第一中学校2年	清水 未咲
		本宮第二中学校2年	佐久間 悠斗
		本宮第二中学校2年	古宮 七瀬
		白沢中学校3年	國分 鈴
		白沢中学校3年	古宮 景衣
	高校生の部	本宮高等学校2年	根本 綺萌
		浪江高等学校3年	菊地 あすみ

○ 大会宣言 本宮市教育委員会教育長 原瀬 久美子

- (4) 参加者：300名

[事業の成果]

次世代の主演となる子どもたちが、心豊かにたくましく成長できるよう、「本宮市青少年健全育成推進大会」の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会及び行政が一体となった市民総ぐるみ運動の実践として青少年の健全育成を図ることができた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、小中学校の理解と協力を得て、「本宮市青少年健全育成推進大会」を開催している。現在、少年の主張ということで実施しているが、高校生だけでなく、社会人なども含めた主張の発表など検討し、より広い年代層での青少年健全育成推進について関わる機会についての場としていきたい。

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="156 152 306 188">自己評価</td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 188 306 286">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 少年の主張・大会宣言など、青少年健全育成推進大会の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、青少年の健全な育成が図られた。 また、発表者の人数を増やすことにより、より広範な市民の参加を得られた。</p> <hr/> <p>[教育長又は教育部長評価] 青少年健全育成推進大会の開催により、徐々に本事業の重要性が市民に浸透してきている。</p>
自己評価			
A			

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	2	放課後子ども教室推進事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

放課後に社会教育施設等を活用し、年間計画による一斉活動や子どもたちの要求に合わせた自由遊びの時間なども確保しながら活動指導員や安全管理員を配置し、子どもたちにスポーツ・文化活動などの体験活動を実施する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)
 意図： 放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身につくなど健全な育成が図れる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,121
財源	
県支出金	3,121

[事務事業の活動実績]

放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身に就くなど健全な育成が図られた。

1. 本宮市遊友クラブ運営委員会の設置

- 運営委員会の開催 (2回開催・委員16名)
- コーディネーターの配置 (本宮地区3名・白沢地区2名)
- 1クラブ当り係員の配置 (活動指導員2～3名・安全管理員2～3名)

2. 実施状況 (7ヶ所)

クラブ名	対象校	実施場所	曜日	児童数(名)	係員登録(名)
もとみや遊友クラブ	本宮小学校	本宮小学校	金	71	21
まゆみ遊友クラブ	本宮まゆみ小学校	本宮まゆみ小学校	木	39	16
ごひゃくがわ遊友クラブ	五百川小学校	五百川小学校	水	44	18
いわね遊友クラブ	岩根小学校	岩根地区公民館	水	46	13
ぬかざわ遊友クラブ	糠沢小学校	糠沢分館	木	70	13
わだ遊友クラブ	和田小学校	和田分館	水	46	12
しらいわ遊友クラブ	白岩小学校	白岩コミュニティセンター	月	41	12
合 計				357	105

3. 参加状況

クラブ名	実施回数	参加児童(延べ数)	参加係員(延べ数)
もとみや遊友クラブ	32	1,762	188
まゆみ遊友クラブ	32	991	152
ごひゃくがわ遊友クラブ	30	901	165
いわね遊友クラブ	32	1,090	189
ぬかざわ遊友クラブ	32	1,873	182
わだ遊友クラブ	30	1,083	150
しらいわ遊友クラブ	32	1,065	143
合 計	220	8,765	1,169

[事業の成果]

各遊友クラブでは、地域の方々と触れ合う機会を大切にしながら、地域の特性を活かした様々なプログラムにより活動しており、放課後の子どもたちの安心安全な居場所として、参加している子どもや保護者、または地域の方々から好評を得ている。

[課題・改善点]

児童が減少傾向にもかかわらず、参加児童が増えており、それらに対応するため、活動指導員や安全管理員の確保及び活動場所の確保が重要となってきた。現在、各クラブ30名を定員としているが、安定したクラブ運営を継続していくため、引き続き係員の募集と活動場所の確保により参加人数の増加に対応できるよう検討したい。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 2px auto;">A</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 保護者及び地域の方々の理解を得て、放課後の安全安心な居場所として定着している。各クラブとも30人の定員を超えての参加申込があり、活動内容に対し評価が得られており、参加延べ人数の増加が見られる。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 保育の有無に拘わらない児童の安全で安心な居場所づくりに寄与し、市民ボランティアの指導と見守りの中、地域とのつながりを深めることができているものと評価する。</p>
--	--

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	5	文化や芸術に親しみ活動する機会の充実
事業名	1	文化芸術行事開催事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化への興味と参加意識を向上させるため、優れた舞台芸術や映画の鑑賞を提供する。また、スポーツの実技指導の機会を市民に提供する。

[目的]

対象： 市内幼稚園、保育所、小・中学校の幼児、児童生徒、一般市民
(何を・誰を)

意図： 優れた芸術や映画の鑑賞などを通して、知識や教養を深め、情操豊かな市民を育成するとともに、市民の生涯学習を推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,271
財源	
国庫支出金	2,200
その他	1,618
一般財源	1,453

[事務事業の活動実績]

(1) 文化・スポーツ振興基金事業（市民のための芸術鑑賞実行委員会補助金）

内 容	「音楽の絵本クラシックコンサート」
開 催 期 日	平成28年8月27日（土）①10時30分～ ②14時～
来 場 者	①341人 ②278人
会 場	サンライズもとみや 大ホール
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
事 業 費	2,240,069円

(2) みんなの作品展（主催事業）

内 容	趣味や講座等で制作した作品の展示
開 催 期 日	平成28年12月9日（金）～12月15日（木）7日間
出 品 内 容	出展者/市民・市内勤務者105人 作品数194点 来場者334人
会 場	中央公民館 展示ホール、第2研修室、第3研修室

(3) 芸術鑑賞教室公演委託事業（主催事業）

幼児から中学生まで成長段階にあわせた芸術鑑賞教室を開催し、舞台の楽しさを体験することができた。

内 容	幼保芸術鑑賞教室公演「うかれバイオリン/ネズミの相談」/劇団なるにあ
開 催 期 日	平成28年10月18日（火）～10月21日（金）
参 加 者	776人
会 場	保育所、幼稚園8カ所
事 業 費	432,000円

内 容	小学校芸術鑑賞教室公演「和泉流一門 おもしろ狂言」
開 催 期 日	平成28年10月18日（火）①10時20分～ ②13時30分～
参 加 者	445人
会 場	しらさわカルチャーセンター
事 業 費	500,000円

(4) 文化活動支援事業補助金

内 容	第6回とっておきの音楽祭in南達
開 催 期 日	平成28年9月11日（日）
来 場 者	延5,000人
会 場	本宮市中條商店街周辺
補 助 事 業 者	（一社）もとみや青年会議所
補 助 金 額	1,000,000円

内 容	2016年第4回カナリヤ映画祭
開 催 期 日	平成28年9月17日（土）～18日（日）
参 加 者	約370人
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮の映画文化を継承する会
事 業 費	100,000円

(5) 本宮市民俗芸能大会実行委員会補助金

内 容	本宮市民俗芸能大会
開 催 期 日	平成28年12月4日(日)
来 場 者	580人
会 場	しらさわカルチャーセンター
補 助 事 業 者	本宮市民俗芸能大会実行委員会
補 助 金 額	1,200,000円

(6) もとみやかるた大会補助金

内 容	第4回もとみやかるた大会
開 催 期 日	平成28年10月2日(日)
出 場 者	130人(来場者320人)
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮むかしむかしの会
補 助 金 額	200,000円

[事業の成果]

子どもから大人そして親子を対象に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、市民の文化芸術活動に対する意識向上が図られた。なお、アンケートの結果についても高い満足度の回答があった。

平成25年度から始まった「もとみやかるた大会」は、毎年参加者が増えており、新たな分野の開拓がなされ、市民の文化活動に触れる機会の拡大が図られた。さらにカナリヤ映画祭も定着してきており、市民の多様な文化的ニーズにも対応することができた。

[課題・改善点]

今年度の文化芸術行事については、各事業とも予定の参加者を得ており、一定の成果を上げることができたといえる。今後も各事業について、実施後のアンケート調査をもとに実行委員会等との協議を経て、事業内容に工夫を加え、市民の積極的参加を促していきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

多種多様な事業を行っている中で、観覧者に満足を与える事業を実施することができた。文化・スポーツ振興基金事業では、毎年多様な分野で事業を企画しており、市民の満足度は高いと思われる。

[教育長又は教育部長評価]

限られた予算の中で、市民の感性を刺激する事業がそれぞれに成功裏に展開できたものと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	6	本宮市の歴史と文化の継承と発信
事業名	1	文化財・史跡保存事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、指定、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理を行う。

[目的] 対象： 国・県・市指定文化財、天然記念物
(何を・誰を)

意図： 貴重な指定文化財・史跡を適切に管理保存し、後世に伝え遺す。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	446
財源	
一般財源	446

[事務事業の活動実績]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理のための事業を行った。

○文化財看板設置及び修繕

指定文化財案内板及び説明板修繕（6箇所） 45,000円
 ・「岩井の清水」 ・「太郎丸観音堂供養塔」 ・「九思堂小泉尚賢先生の碑」
 ・「伊藤太乙の碑」 ・「小沼貞長説明板」 ・「神宮寺石造供養塔」

史跡「城ノ内古戦場」 説明板修繕設置（1箇所） 162,000円

○市指定天然記念物樹勢回復事業

・「寺下のかさ松」
支柱設置工事 124,200円

○埋蔵文化財保存事業

・団子森遺跡試掘調査（学校グラウンド拡張工事に伴う試掘調査）

[事業の成果]

- ①劣化した文化財説明看板の修繕を実施した。
- ②市指定天然記念物である「寺下のかさ松」の樹勢回復事業として支柱を設置した。
- ③団子森遺跡の試掘調査を実施した。

[課題・改善点]

文化財の案内看板や説明板については、経年劣化のための損傷が見受けられるので、今後も修繕のための点検を行っていきたい。天然記念物については、樹勢が衰えている樹木もあるので、定期的な観察と早めの樹勢回復を図る必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

歴史的価値の高い文化財を守るために様々な事業を実施しながら、貴重な指定文化財や史跡を適切に管理保存することができた。また、天然記念物の樹勢回復について早期に対応できたことにより、回復に繋がった。

[教育長又は教育部長評価]

指定文化財等の保存について、年次計画に基づき実施できた。
また、埋蔵文化財の保存についても、日常的に開発事業者に指導できた。

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	1	安全な教育施設の整備
事業名	1	学校施設等耐震化推進事業
担当課		教育総務課

[事業概要]

市内の学校施設で昭和56年以前に建築された2階建て以上もしくは1棟の面積が200㎡以上のすべての施設について、耐震診断を行い、その結果に基づき耐震化工事を行う。

[目的]

対象： 本宮第一中学校校舎
(何を・誰を)

意図： 地震で倒壊しない、児童・生徒等が安心して過ごせる施設にする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

耐震化計画に基づき、本宮第一中学校南校舎耐震補強改修工事を実施した。

取組内容

[南校舎耐震補強改修工事] 27繰越明許事業 (H27.6.19~H28.10.10)

工事面積及び補強箇所が多く、また、生徒の安全な動線を確保した仮設計画を行い、かつ教室ローテーションを行いながら、居ながら施工を行うために、約16ヶ月の工期を要することから、繰越明許を行い、3工区に分割して工事を行った。

- ・改修範囲 鉄筋コンクリート造3階建(昭和47年築)延床面積2,467㎡
渡り廊下 鉄骨造2階 延床面積120㎡
- ・耐震補強 鋼管ブレース補強19箇所、柱包帯補強8箇所、耐震スリット2箇所
ベランダ及び玄関、昇降口パラペット軽量化 外
- ・大規模改造 クラック全面補修、内外部大規模改修、トイレ全面改修、
給排水管全面更新、FF式石油ヒーター新設、エレベーター設置
校内LAN改修、電気設備更新、機械設備更新 外

[南校舎耐震補強改修工事監理業務委託] 27繰越明許事業 (H27.6.19~H28.10.17)

南校舎耐震補強改修工事と同様に、繰越明許を行った。

[旧体育館等解体工事] (H29.1.24~H29.5.23)

老朽化が著しい旧体育館及び屋外プール等を解体し、学校施設の安全と適正化を図るため工事を行うが、約4ヶ月の工期を要することから、繰越明許を行った。

- ・旧体育館 鉄骨造2階 延床面積1,039㎡
- ・プール アルミ製プール 922㎡ (プールサイドを含む)
- ・その他 管理棟解体 延床面積60㎡、倉庫解体 延床面積14.9㎡
フェンス設置、跡地盛土整地外

事業費・財源内訳

決算額	千円
	415,781
財源	
国庫支出金	79,827
市債	271,500
その他	54,981
一般財源	9,473

[事業の成果]

学校施設等耐震化推進計画に基づき、本宮第一中学校南校舎耐震補強改修工事を計画通りに実施することができた。また、本宮第一中学校南校舎耐震補強改修工事については、面積及び補強箇所が多く、かつ居ながら施工のため、繰越明許を行い工事を行った。以上をもって、小中学校における耐震化事業は完了した。

また、繰越事業として本宮第一中学校旧体育館等解体工事を実施している。。

[課題・改善点]

震災及び原発事故以降、工事請負業者の不足や工事単価の上昇が続いており、工事施工や事業費への影響が懸念される。

小中学校耐震化事業が完了したため、今後は第3保育所、第2保育所の耐震化事業を進めて行く。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

計画的に学校施設等の耐震化を推進しており、今年度も計画通り事業を進め、児童・生徒が安心して過ごせる教育環境の改善と向上が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

学校施設等の耐震改修工事が計画通りに進められており、児童生徒の安全確保と教育環境の向上につながっている。

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	2	安全・安心な教育環境の確保
事業名	1	学校給食放射性物質検査事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

給食の食材検査を実施する。

[目的] 対象： 学校給食
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 安全安心に提供する。

[事務事業の活動実績]

・セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg未満を独自基準値として毎食測定を実施する。
(※国の一般食品中の放射性物質の規制値は100Bq/kg)

・10Bq/kgを超えた食材数 . . . なし

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,931
財源	
国庫支出金	1,337
県支出金	1,908
一般財源	8,686

[事業の成果]

各施設で実施している学校給食の測定について、食材毎、1食丸ごと、1食分検査を行い市独自基準である10ベクレル未満であることを確認し、安全安心な給食提供を行った。

[課題・改善点]

各施設にて検査を行っているが、集約して検査をすることが可能か検討を要する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

食材ごと、1食丸ごとの放射性物質検査を毎食実施し、市の独自基準を超えることなく安全安心な給食を提供することができている。また、市のホームページに公表することで、保護者の不安解消につながっている。

[教育長又は教育部長評価]

独自基準による放射性物質検査を継続的に実施し、検査結果を公表することにより、学校給食の安全・安心が確保されている。

事業名	教育委員会運営事業
担当課	教育総務課

[事業概要]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置された教育委員会を運営し、教育行政を合議し執行する。

[目的]

対象： 市民、教育行政
(何を・誰を)

意図： 教育委員会の会議を開催し、教育に関する様々な施策を検討、決定することで本市教育行政の充実と向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,866
財源	
一般財源	1,866

[事務事業の活動実績]

1. 教育委員会の構成 5名（教育長、教育委員4名）
2. 教育委員会開催状況（開催日、議案等の内容）

会議名	期 日	出席者数	議 案 等 の 内 容					合 計
			人 事	施 策	条例規則	予算決算	その他	
定例会	28. 4. 20	5	3		3		10	16
定例会	28. 5. 23	5	1			1	7	9
定例会	28. 6. 22	5			2		9	11
定例会	28. 7. 21	5	1	1			2	4
定例会	28. 9. 2	5			5	2	10	17
定例会	28. 9. 21	5					13	13
定例会	28.10.25	3					10	10
定例会	28.11.24	5				1	3	4
定例会	28.12.22	5			1		3	4
定例会	29. 1. 19	5		1			3	4
定例会	29. 2. 23	5			1	2	7	10
臨時会	29. 3. 3	5	1					1
定例会	29. 3. 27	5	4				4	8
合計	13回		10	2	12	6	81	111

3. 学校訪問実施状況

小中学校、幼稚園、保育所全施設を訪問し、学校経営及び教育活動概要、学校課題等の現状把握と要望の聞き取りを行い、教育活動の支援に努めた。

期 日	出席者数	訪 問 先
28. 5. 30	5	本宮第一中学校
28. 6. 14	5	本宮まゆみ小学校
28. 6. 20	5	五百川小学校、五百川幼保総合施設
28. 9. 2	5	白沢中学校
28. 9. 8	5	糠沢小学校、糠沢幼稚園
28. 9. 30	4	白岩小学校、白岩幼稚園、白沢保育所
28.10.20	5	和田小学校
28.10.21	4	岩根小学校、岩根幼稚園、和田幼稚園
28.10.28	5	本宮第二中学校、第3保育所
28.11. 2	5	本宮小学校、第1保育所、第2保育所

4. 視察研修の実施

東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、他市町村教育委員等との交流及び情報交換を行った。

研修月日：平成28年7月14日（木）～15日（金）

研修会名：平成28年度東北六縣市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

研修場所：宮城県松島町「ホテル松島 大観荘」

[事業の成果]

教育委員会定例会等の会議、保育所・幼稚園・小中学校への訪問事業、各種研修会への参加など、教育事情の把握や改善に努めた。また、教育委員会の会議公開及び会議録を市ホームページへ公開することにより、教育委員会の透明化を図った。

特に学校等訪問においては、教職員との分科会形式による懇談会を実施するなど、現場の声を聞き取り、教育活動の支援及び教育環境の整備に努めた。

また、視察研修においては、今後の教育委員会制度等の研修と、他市町村教育委員等との情報交換を行い、今後の本市における教育行政推進のための参考とした。

[課題・改善点]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成27年4月1日から施行され、教育委員長と教育長を一本化した新「教育長」が設置され、第一義的責任者が明確にされるとともに、市長・教育長・教育委員が構成メンバーとなる「総合教育会議」が設置されるなど、教育委員会の組織・体制等が大きく変わったため、適切な対応が求められる。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

教育委員会の円滑な運営と、本宮市総合教育会議の開催により、教育行政における諸課題に適切に取り組むことができた。

また、学校訪問の実施により、市内小中学校・幼稚園・保育所の現状を把握することは、教育行政の充実と向上を図るうえで、有意義なものであった。

[教育長又は教育部長評価]

本市が掲げる大人像・子ども像を目指し、教育行政の中立性と安定性を確保しつつ、指導行政の重視、教育行政と一般行政の調和、生涯学習の推進など、教育委員会としての役割を果たしている。